

講義科目名称：人間の尊厳と自立	授業コード：32231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2	卒業選択／資格必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	人間の尊厳と自立のあり方について学ぶ。本講義では、①人権・福祉理念の変遷について理解できる、②人権と尊厳に関する諸規定を説明できる、③人間の尊厳と利用者主体を理解できる、④自立について説明できる、⑤尊厳と自立支援の関係性を理解できることを目標とする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・福祉理念の変遷について理解できる。 ・人権と尊厳に関する諸規定を説明できる。 ・人間の尊厳と利用者主体を理解できる。 ・自立について説明できる。 ・尊厳と自立支援の関係性を理解できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	利用者の主体性を重視した声かけを理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	介護保険法における尊厳と自立について考えることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	尊厳を重視した介護の重要性を理解し、積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	人間の尊厳と利用者主体の関係について理解する。	面接授業	予習：人権思想の潮流を読んでおくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
2回目	人権思想のこれまでの流れを説明する。	面接授業	予習：人権や尊厳に関する諸規定を読んでおくこと（1時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
3回目	日本の諸規定にみられる人権と尊厳について説明する。	面接授業	予習：戦前の援助にみられる人権と福祉理念を読んでおくこと（1時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
4回目	戦前の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。	面接授業	予習：戦後の援助にみられる人権と福祉理念を読んでおくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
5回目	戦後の援助にみられる人権と福祉理念について説明する。	オンライン可	予習：権利について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
6回目	利用者の権利について理解する。	オンライン可	予習：介護保険法を調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
7回目	介護保険法における尊厳と自立について理解する。	オンライン可	予習：自立概念の多様性を読んでおくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと

			(0.5時間)。
8回目	自立のさまざまな側面を理解する。	面接授業	予習：自立についてを読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
9回目	自立と自己決定の関係について理解する。	面接授業	予習：介護を必要とする人の自立と自立支援を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
10回目	介護における自立支援が目指すものを理解する。	面接授業	予習：ICFについて調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
11回目	自立支援とICFの関係を説明する。	面接授業	予習：尊厳を損なう介護について考えておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
12回目	尊厳を損なう介護について理解する。	オンライン可	予習：尊厳を守る介護について考えておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
13回目	尊厳を守る介護について理解する。	面接授業	予習：主体性について調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
14回目	利用者の主体性を大切にされた声かけを理解する。	面接授業	予習：配布したプリントを整理しておくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返

			り理解を深めておくこと(1時間)。
15 回目	まとめ	面接授業	
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『人間の理解』（中央法規）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：人間関係とコミュニケーション	授業コード：14131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2	卒業選択／資格必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	人間関係におけるコミュニケーションの機能と取り方について学ぶ。本講義では、①人間関係について説明できる、②コミュニケーションの機能と構造について説明できる、③コミュニケーションの手段を説明できる、④対人援助関係におけるコミュニケーションの取り方を理解できる、⑤組織におけるコミュニケーションの取り方を理解できることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係について説明できる。 ・コミュニケーションの機能と構造について説明できる。 ・コミュニケーションの手段を説明できる。 	定期試験	60%
コミュニケーション能力	組織におけるコミュニケーションの取り方を理解できる。	グループディスカッション	30%
課題解決能力	対人援助関係におけるコミュニケーションの課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験 60%、グループディスカッション 30%、レポート 10%の割合で評価する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	自分と他者の理解について理解する。	面接授業	予習：ストレスについて調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
2回目	人間関係とストレスについて理解する。	面接授業	予習：他者をどのように認識しているか考えておくこと。(1時間) 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
3回目	グループワーク① 自分と他者の認識のずれについて考える。	面接授業	予習：コミュニケーションの概念を読んでおくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
4回目	コミュニケーションの概念について説明する。	オンライン可	予習：コミュニケーションの構造を読んでおくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
5回目	コミュニケーションの構造について説明する。	面接授業	予習：援助的人間関係の形成を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
6回目	援助的人間関係の形成について説明する。	オンライン可	予習：自分を取り巻く様々な関係性について考えておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
7回目	グループワーク② 関係性によるあいさつの違いについて考える。	面接授業	予習：対人援助関係とコミュニケーションの関係を読

			<p>んでおくこと (0.5 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5 時間)。</p>
8 回目	対人援助関係とコミュニケーションの関係について説明する。	オンライン可	<p>予習：対人援助における基本的態度を読んでおくこと (0.5 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5 時間)。</p>
9 回目	対人援助における基本的態度について説明する。	面接授業	<p>予習：援助的人間関係の形成を読んでおくこと (1 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (1 時間)。</p>
10 回目	援助的人間関係の形成について説明する。	面接授業	<p>予習：バイステックの 7 つの原則を確認しておくこと (1 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (1 時間)。</p>
11 回目	グループワーク③ 傾聴について考える。 バイステックの 7 つの原則について考える。	面接授業	<p>予習：組織におけるコミュニケーションの特徴を読んでおくこと (1 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5 時間)。</p>
12 回目	組織におけるコミュニケーションの特徴について説明する。	オンライン可	<p>予習：組織における情報の流れを読んでおくこと (1 時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5 時間)。</p>
13 回目	組織における情報の流れについて説明する。	面接授業	<p>予習：組織において求められるコミュニケーションを読んでおくこと (1 時間)。 復習：講義の内容を振り返</p>

			り理解を深めておくこと (0.5時間)。
14回目	組織において求められるコミュニケーションについて説明する。	面接授業	予習：ブレインストーミングについて調べておくこと (1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5時間)。
15回目	グループワーク④ ブレインストーミングをやってみる。	面接授業	復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと (0.5時間)。
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	教科書『人間の理解』（中央法規）。
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：社会の理解 I	授業コード：53132
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1	卒業選択／資格必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	<p>家族や地域の現状をふまえた上で、地域における生活支援と地域共生社会の実現に向けた制度について理解を深める。本講義では、①生活の基本機能を理解できる、②家族の機能と役割を説明できる、③地域における生活支援について理解できる、④地域福祉について理解できる、⑤地域共生社会の実現に向けた取り組みについて説明できることを目標とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の基本機能を理解できる。 ・家族の機能と役割を説明できる。 ・地域における生活支援について理解できる。 ・地域福祉について理解できる。 ・地域共生社会の実現に向けた取組について説明できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、地域共生社会について理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	地域福祉の課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	地域の生活支援における介護福祉士の役割について考えることができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<p>本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。</p>			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	社会関係と家庭機能について説明する。	面接授業	予習：家族の機能と役割を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
2回目	家族の形態と機能の変容について理解する。	面接授業	予習：自助・互助・共助・公助について調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
3回目	地域社会の変容と自助・互助・共助・公助について説明する。	オンライン可	予習：福祉ミックスについて調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
4回目	福祉ミックスについて説明する。	オンライン可	予習：地域福祉の発展を読んでおくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
5回目	地域福祉の考え方について説明する。	面接授業	予習：地域共生社会について調べておくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
6回目	地域共生社会が求められる背景と取組について説明する。	面接授業	予習：地域包括ケアシステムについて調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
7回目	地域包括ケアシステムについて理解する。	面接授業	予習：配布したプリントを整理しておくこと(0.5時

			間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
8回目	まとめ	面接授業	
9回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『社会の理解』（中央法規）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：社会の理解Ⅱ	授業コード：51132
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2	卒業選択／資格必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	<p>社会保障制度、介護保険制度、障害者総合支援制度の創設された背景、目的、仕組み、専門職・組織の役割について学ぶ。本講義では、①社会保障制度が創設された背景と目的について理解できる、②社会保障制度の仕組みを説明できる、③介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる、④介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる、⑤障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できることを目標とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度が創設された背景と目的を理解できる。 ・ 社会保障制度の仕組みを説明できる。 ・ 介護保険制度が創設された背景と目的を説明できる。 ・ 介護保険制度の仕組み、専門職・組織の役割を理解できる。 ・ 障害者支援制度の目的、仕組み、専門職・組織の役割を理解できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、介護保険制度について理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	介護保険制度の課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	介護保険制度における介護福祉士の役割について考えることができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	社会保障制度の基本的な考え方（目的と機能）を説明する。	面接授業	予習：社会保障制度の歴史的展開を読んでおくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1 時間）。
2 回目	社会保障制度の歴史的展開について説明する。	面接授業	予習：社会保険の内容を調べておくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5 時間）。
3 回目	社会保険の内容を理解する。	面接授業	予習：生活保護について調べておくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5 時間）。
4 回目	生活保護について理解する。	オンライン可	予習：社会保障制度の動向と課題を読んでおくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1 時間）。
5 回目	社会保障制度の動向と課題を理解する。	オンライン可	予習：高齢者保健福祉の動向を読んでおくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5 時間）。
6 回目	高齢者保健福祉の動向について説明する。	面接授業	予習：高齢者保健福祉の法体系を調べておくこと（0.5 時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1

			時間)。
7回目	高齢者保健福祉の法体系について説明する。	オンライン可	予習：介護保険制度の目的を調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
8回目	介護保険制度創設の背景と目的を理解する。	面接授業	予習：介護保険制度の仕組みを読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
9回目	介護保険制度の仕組みについて理解する。	面接授業	予習：介護保険制度における専門職・組織の役割を読んでおくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
10回目	介護保険制度における専門職・組織の役割を理解する。	面接授業	予習：障害者保健福祉の動向を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(0.5時間)。
11回目	障害者保健福祉の動向について説明する。	面接授業	予習：障害者保健福祉の法体系を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
12回目	障害者保健福祉の法体系について説明する。	面接授業	予習：障害者総合支援制度の目的を調べておくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
13回目	障害者総合支援制度創設の背景と目的を理	面接授業	予習：障害者総合支援制度

	解する。		における専門職・組織の役割を読んでおくこと(0.5時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
14 回目	障害者総合支援制度における専門職・組織の役割を理解する。	面接授業	予習：配布したプリントを整理しておくこと(1時間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
15 回目	振り返りを行う。	面接授業	
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『社会の理解』（中央法規）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：社会の理解Ⅲ	授業コード：23231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1	卒業選択／資格必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	介護の実践に関連する諸制度について理解を深める。本講義では、①個人の権利を守る制度を理解できる、②保健医療に関する制度を理解できる、③貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる、④地域生活を支援する制度を理解できる、⑤市町村の行政計画を理解できることを目標とする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の権利を守る制度を理解できる。 ・保健医療に関する制度を理解できる。 ・貧困対策・生活困窮者支援に関する制度を理解できる。 ・地域生活を支援する制度を理解できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、市町村の行政計画について理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	これらの制度に関する課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	関連する制度について理解することの必要性を理解し積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項	
本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	虐待防止に関する制度について説明する。	面接授業	予習：成年後見制度について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
2回目	成年後見制度について理解する。	面接授業	予習：健康日本21について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
3回目	健康日本21、健康増進法について理解する。	面接授業	予習：感染症について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
4回目	感染症に関する法律について理解する。	面接授業	予習：生活困窮者自立支援法について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
5回目	生活困窮者自立支援法について理解する。	オンライン可	予習：高年齢者雇用安定法について調べておくこと（1時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（0.5時間）。
6回目	就労支援・雇用促進に関する制度を理解する。	オンライン可	予習：バリアフリー新法について調べておくこと（0.5時間）。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと（1時間）。
7回目	住生活を支援する制度を理解する。	面接授業	予習：配布したプリントを整理しておくこと（1時

			間)。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(1時間)。
8回目	まとめ	面接授業	
9回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『社会の理解』（中央法規）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：介護の基本A	授業コード：21041
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	4単位	必修	講義
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>介護を必要とする人の支援を行うために必要な、生活・社会資源・リスクマネジメント・多職種連携について理解する。支援対象者の個別性を理解し自立支援に向けた基礎知識を身につける。</p> <p>①介護を受けて生活する人およびその生活について理解する</p> <p>②フォーマルおよび、インフォーマルな支援、地域連携について学びを深める</p> <p>③介護における安全の確保、リスクマネジメントとは何か、リスクを回避する方法について学ぶ</p> <p>④多職種が連携する必要性や多職種の役割を知る</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な人の立場に立った視点を持ち、生活課題を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	5%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生活とは何かを理解し、介護が必要な人の生活課題をみつけだし、その改善方法を考えることができる。 ・フォーマルサービス、インフォーマルサービスの違いを理解することができる ・リスク回避の方法と、多職種連携の意義が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 	70%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身の生活について基本的な理解を深め、その上で利用者個人の「生活ニーズ」、「その人らしさ」を大切にする介護のあり方について討議できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・生活課題を見つけ出し、その改善方法について文章化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	5%

主体的に学ぶ力	・積極的に学習ができる。	・授業への参加態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験 70%、レポート 30%で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する 			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「介護を必要とする人の理解」 私たちの生活の理解 生活とは何か	面接授業（オンライン対応可能）	予習： p 2 ～ p 5 (1時間)
2 回目	私たちの生活の理解 生活にとって大切な要素 生活の特性	面接授業（オンライン対応可能）	復習：前回の授業 予習： p 3 ～ p 9 (1時間)
3 回目	私たちの生活の理解 配布資料をもとに、演習を行う	面接授業（オンライン対応可能）	復習：1 回目・2 回目授業を 復習しておくこと (1時間)
4 回目	私たちの生活の理解 生活の特性 演習を通して生活の違いを理解する	面接授業（オンライン対応可能）	復習： p 2 ～ p 8 予習： p 9 ～ p 1 3 (1時間)
5 回目	介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く	面接授業	予習： p 1 5 ～ p 2 2 (1時間)
6 回目	介護を必要とする高齢者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う	面接授業	復習：前回の授業 予習： p 1 5 ～ p 2 2 (1時間)
7 回目	介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く	面接授業	予習： p 2 3 ～ p 3 1 (1時間)
8 回目	介護福祉を必要とする障害者の暮らし 事例を読み解く グループワークを行う	面接授業	復習：前回の授業 予習： p 2 3 ～ p 3 1 (1時間)
9 回目	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解。 その人らしさを考える。	面接授業	予習： p 3 3 ～ p 3 6 (1時間)

10 回目	生活のしづらさの理解とその支援 演習：生活のしづらさを自分の事として考える	面接授業	復習：前回授業 予習：p 37～p 45 (1時間)
11 回目	生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 生活障害について考える	面接授業	復習：p 33～p 45 予習：配布資料を読んでおくこと
12 回目	生活のしづらさの理解とその支援 生活のしづらさに対する支援 前回授業のグループワーク、発表。	面接授業	復習：p 33～p 45 予習：配布資料を読んでおくこと (1時間)
13 回目	介護を必要とする人の理解について、小テスト①の実施	面接授業	復習：p 2～p 45 これまでの授業内容を復習しておくこと。(1時間)
14 回目	「介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ」 生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 関連項目：社会の理解、第3章3節、第4章3節、第5章3節を事前に読んでおくこと 理解がより深まる。	面接授業	予習：p 48～p 60 (1時間)
15 回目	生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 関連項目：社会の理解、第3章3節、第4章3節、第5章3節を事前に読んでおくこと 理解がより深まる。	面接授業	予習：p 48～p 60 (1時間)
16 回目	生活を支えるフォーマルサービス 社会的サービスとは 演習2-1をグループワーク発表	面接授業 (オンライン対応可能)	予習：p 48～p 60 (1時間)
17 回目	生活を支えるフォーマルサービス 私的サービスとは 関連項目：社会の理解、第3章3節を事前に読んでおくこと 理解がより深まる。	面接授業 (オンライン対応可能)	予習：p 61～p 67 (1時間)
18 回目	地域連携 意義と目的、期間の理解。	面接授業 (オンライン対応可能)	予習：p 68～p 80 関連項目：社会の理解、第2章を事前に読んでおくこと 理解がより深まる。 (1時間)
19 回目	地域連携	面接授業 (オ	復習：p 68～p 82

	利用者を取り巻く地域連携の実際	オンライン対応 可能)	予習：p 80～p 82 (1時間)
20 回目	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ について 小テスト②を行う	面接授業	復習：p 48～p 82 これまでの授業内容を復習しておくこと。(1時間)
21 回目	「介護における安全の確保とリスクマネジメント」 介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何か	面接授業	予習：p 84～p 99 (1時間)
22 回目	介護における安全の確保 事故防止のための対策	面接授業	予習：p 103～p 113 (1時間)
23 回目	感染症対策 介護福祉職に必要な感染に関する知識を身につける	面接授業	予習：p 115～p 136 (1時間)
24 回目	介護における安全の確保とリスクマネジメント について 小テスト③を行う	面接授業	復習：p 84～p 136 これまでの授業内容を復習しておくこと。(1時間)
25 回目	「協働する多職種の機能と役割」 多職種連携・協働の必要性	面接授業	予習：p 140～p 151 (1時間)
26 回目	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	面接授業	予習：p 152～p 160 (1時間)
27 回目	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 ホスピタリティー・コミュニケーション能力とは何か	面接授業	予習：p 161～p 165 (1時間)
28 回目	保険・医療・福祉職の役割と機能	面接授業	予習：p 167～p 180 (1時間)
29 回目	他職種連携・協働の実際	面接授業	復習：配布資料の読み返し 予習：p 183～p 198 (1時間)
30 回目	協働する多職種の機能と役割について 小テスト④の実施	面接授業	復習：p 140～p 198 これまでの授業内容を復習しておくこと。(1時間)

科目 (教職課程用)	
------------	--

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 4 「介護の基本II」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	介護の基本 A では、生活支援における基本を学びます。この基本は介護福祉士にとって非常に重要な考え方となります。テキストを読み解き、他科目のテキスト「関連項目」も意識しながら授業にのぞんでください。そうすることで、より深い理解が生まれます。
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。

講義科目名称:介護の基本 B	授業コード:14031
英文科目名称:	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	4単位	必修	講義・演習
担当教員				
尾村 恵子				

授業概要	介護福祉の理念となる、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・自ら考え、課題に対して取り組むことができ、クラスメイトとも協力して解決することができる。	授業態度 課題への取り組み	10%
確かな専門的知識 や技能	・「介護」の経緯を理解する ・様々な介護場面での介護福祉士の役割と機能を理解する ・介護福祉士の職業倫理を理解する ・自立支援の考え方を理解する	定期試験	60%
コミュニケーション能力	かかわりを示すための基本動作、納得と同意を得る技法を理解している	グループディスカッション	10%
課題解決能力	多職種の役割を理解し、課題に取り組み、解決することができる。	授業への参加 課題への取り組み	10%
主体的に学ぶ力	介護概念・基本理念・介護福祉士の倫理・自立支援の在り方を理解することができる	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・評価の割合は、授業参加・態度・取り組み 40%、定期試験 60%とする			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「介護福祉とは」 ・介護の成り立ち	オンライン 対応可	予習:テキストP2~21まで読み、内容を理解し、演習1-1について考え、まとめておく

			(4時間)
2回目	「介護福祉とは」 ・介護の概念の変遷	オンライン 対応可	予習：テキスト P23～45 まで読み、演習 1-2 について考え、まとめておく(3時間) 復習：テキスト P23～45 見直し授業内容の理解を深める(1時間)
3回目	「介護福祉とは」 ・介護福祉の基本理念	面接授業	予習：P47～56 まで読む 演習 1-3 尊厳を支える介護について考えをまとめておく(3時間) 復習：P47～56 テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
4回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・介護福祉士の活躍の場と役割 地域・在宅の場での介護福祉士の役割と機能について学ぶ	オンライン 対応可	予習：テキスト P60～68 まで読み、地域・在宅の場での介護福祉士の役割と機能を理解する(3時間) 復習：テキスト P60～68 テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
5回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・介護福祉士の活躍の場と役割 医療的ケア・人生の最終段階の支援について学ぶ	オンライン 対応可	予習：テキスト P68～75 まで読み、演習 2-1 について考えをまとめる(3時間) 復習：テキスト P68～75 テキスト見直し授業内容への理解を深める(1時間)
6回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・社会福祉士及び介護福祉士法	オンライン 対応可	予習：テキスト P77～85 を読み、演習 2-3 について考えをまとめる(3時間) 復習：テキスト P77～81 見直し授業内容の理解を深める(1時間)
7回目	「介護福祉士の役割と機能」 ・介護福祉士養成カリキュラムの変遷	オンライン 対応可	予習：テキスト P86～98 を読む。 演習 2-2 について考えをまとめる(3時間) 復習：P86～98 テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
8回目	「介護福祉士の機能と役割」 ・介護福祉士を支える団体	オンライン 対応可	予習：テキスト P99～107 を読み、介護福祉士を支える団体の働きを理解する(3時間) 復習：P99～107 テキスト見直し授業内容の理解を深める(1時間)
9回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理	オンライン 対応可	予習：テキスト P110～120 を読み、介護の職業倫理についてまとめる。(3時間)

			復習:P110~120 テキスト見直し授業 内容の理解を深める(1時間)
10回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理 事例紹介	オンライン 対応可	予習:テキスト P114~116 までの事例 を読み、介護福祉士としての対応を考 える (3時間) 復習:P114~120 テキスト見直し授業 内容の理解を深める (1時間)
11回目	「介護福祉士の倫理」 ・介護福祉士の倫理 事例に基づき、介護福祉士の倫理 についてグループディスカッショ ン	面接授業	予習:テキスト P121~123 の事例につ いて、介護福祉士としての対応を考 えておく (3時間) 復習:P121~124 テキスト見直し授業 内容の理解を深める (1時間)
12回目	「介護福祉士の倫理」 ・日本介護福祉士会倫理綱領	オンライン 対応可	予習:テキスト P125~135 を読み、介 護福祉士に求められる態度を理解す る (3時間) 復習:P125~135 テキスト見直し授業 内容の理解を深める (1時間)
13回目	「介護福祉士の倫理」 ・日本介護福祉士会倫理綱領 介護にたずさわる人がもつべき職 業倫理を学ぶ	オンライン 対応可	予習:テキスト P125~135 を読み、介 護福祉士の倫理綱領を理解し、専門 性・倫理について考えをまとめておく (3時間) 復習:P125~135 テキスト見直し授業 内容を理解しておく(1時間)
14回目	前期講義まとめ	面接授業	復習:P2~125 テキスト見直し、テス ト範囲の学習を行う(4時間)
15回目	「前期講義復習」 ・中間テスト範囲復習	面接授業	復習:プリント見直しを行い、テスト 範囲の学習を行う(4時間)
16回目	中間テスト	面接授業	予習:テキスト P2~125 の範囲の内容 を理解しておく。プリントの見直しを 行う(4時間)
17回目	「自立に向けた介護福祉のあり 方」 ・自立支援の考え方	オンライン 対応可	予習:P138~143 までを読み、リビン グ・ウィルについて、エンパワメント の考えについて考えをまとめる (3時 間) 復習:P138~143 まで読み、授業内容 の理解を深める (1時間)
18回目	「自立に向けた介護福祉のあり	オンライン	予習:テキスト P143~145 を読み、自

	方」 ・自立支援の考え方 自立支援の具体的な考え方を理解する	対応可	立支援と ICF の考え方についてまとめる (3 時間) 復習: テキスト P143~145 見直し・授業内容の理解を深める (1 時間)
19 回目	「自立に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援の考え方 利用者の意思決定を支える方法について理解する	オンライン 対応可	予習: 演習 4-1 をテキストや今回までの授業内容を見返し、書き出す。(3 時間) 復習: P138~145 テキスト見直し・授業内容の理解を深める (1 時間)
20 回目	「自立に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援の考え方 自立支援におけるエンパワメントと ICF の意義について理解する	オンライン 対応可	予習: エンパワメントアプローチについて・ICF の意義について考えをまとめる (3 時間) 復習: P138~145 テキスト見直し授業内容の理解を深める (1 時間)
21 回目	「自立に向けた介護福祉のあり方」 ・ICF の考え方 ICF における生活機能と各因子との相互作用について理解する	オンライン 対応可	予習: テキスト P147~152 までを読み、ICF モデルと用語の定義を把握しておく (3 時間) 復習: プリントを確認し、ICF の分類と相互作用についての理解を深める (1 時間)
22 回目	「自立に向けた介護福祉のあり方」 ・ICF の考え方 ICF やストレングスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ	オンライン 対応可	予習: テキスト P152~154 までを読み、演習 4-2 を記入しておく (3 時間) 復習: P138~154 までテキストを読み、授業内容の理解を深める (1 時間)
23 回目	「自立支援に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援とリハビリテーション	オンライン 対応可	予習: P155~161 まで読み、リハビリテーションの基本的な考え方についてまとめておく (3 時間) 復習: P155~161 テキスト見直し授業内容の理解を深める (1 時間)
24 回目	「自立支援に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援とリハビリテーション」	オンライン 対応可	予習: P161~168 まで読み、リハビリテーションの体系・専門職についてまとめておく (3 時間) 復習: P161~168 テキスト見直し授業

	リハビリテーションの中での介護福祉士の役割を理解する		内容の理解を深める(1時間)
25回目	「自立支援に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援とリハビリテーション	オンライン 対応可	予習:テキスト 168~174 をよみ、P175 の演習 4-3、4-4 を解いておく(3時間)復習:テキスト 168~174 を見直し、授業内容を理解する(1時間)
26回目	「自立支援に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援と介護予防 介護予防の中で介護福祉士の役割について理解する	オンライン 対応可	予習:テキスト P176~184 まで読み、自立支援と介護予防の基本的な考え方をまとめる(3時間) 復習:P196~198 テキスト見直し、介護予防での介護福祉士の役割についての理解を深める(1時間)
27回目	「自立支援に向けた介護福祉のあり方」 ・自立支援と介護予防 高齢者の身体特性・生理特性を理解し、どのような介護予防の方法があるかを学ぶ 生活機能評価について理解する	オンライン 対応可	予習:テキスト P184~199 を読み、高齢者の身体・生理特性についてまとめる(2時間) 復習:P184~199 テキスト見直し、生活機能評価について理解を深め、介護福祉士の役割を考える(2時間)
28回目	まとめ	オンライン 対応可	復習:中間テストの復習を行い、テキスト P2~199 を読み、内容を理解しておく。(4時間)
29回目	まとめ	オンライン 対応可	復習:テスト範囲内の学習を行う(4時間)
30回目	試験対策	面接授業	復習:テスト範囲内の学習を行う(4時間)

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」中央法規出版 必要に応じて資料配布
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	授業後、空きコマ等講義時間外での質問も受け付けます。

講義科目名称：介護の基本 C	授業コード：33142
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2年	4単位	必修	講義
担当教員				
川原 ゆかり、太田 茂美、尾村 恵子				

授業概要	<p>事例研究を参考に、パワーポイントを作成し研究報告の練習を行う。その過程において、自分自身の資料だけでなくクラスメイトの資料作成にも協力する、コミュニケーション能力・チームワーク能力の獲得を目指す。また、「介護の基本」で学んだことの知識を正確に身につけ、その知識の中から生活課題解決の提案ができ、資料を作成してプレゼンテーションすることができるようになる。</p> <p>①事例研究論集を例として用い、パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。 介護の基本の基礎知識をもとに、生活支援における課題について考えることができる。</p> <p>②事例研究本論の作成においては、領域「社会の理解」と「こころとからだのしくみ」で学んだ知識と「介護の基本」「生活支援技術」を統合し、生活課題解決のための提案をすることができる。</p> <p>③介護従事者の心身の健康・労働環境について理解できる。</p> <p>④2年間で学修した「介護の基本」を記憶することを目指す。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	学生同士、協力してパワーポイント・レポート等を作成できる	パワーポイント・レポート	5%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護の基本」の知識を正確に身につけることができる。 ・「介護の基本」の知識を修得し、生活支援における根拠を示す事ができる。 	定期試験 小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	・教員の指導を素直に受け入れ、指導を受けたことを実践することができる。	パワーポイント・レポート	5%
課題解決能力	・報告・連絡・相談を教員にすることができ、自身の課題を解決することができる。	パワーポイント・レポート	10%
主体的に学ぶ力	・積極的に自らの課題に取り組み続けることができる。	・授業への参加・態度	10%

合計	100%
補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験 60%、小テスト 10%、パワーポイント・レポート 20%、授業への参加・態度 10% で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する 	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	事例研究レポートの作成方法 P C 操作、論文作成の環境説明、パワーポイント作成のポイント等	面接授業 (オンライン対応可)	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
2 回目	事例研究レポートの作成方法 パワーポイントの作成	面接授業 (オンライン対応可)	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
3 回目	事例研究レポートの作成方法 構成方法と参考文献 参考文献を探す (図書館の利用方法)	面接授業 (オンライン対応可)	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
4 回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成 O P (パソコン) 室	面接授業 (オンライン対応可)	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
5 回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成 O P (パソコン) 室	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
6 回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成 O P (パソコン) 室	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2 時間)
7 回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの作成	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習

	OP (パソコン) 室		(2時間)
8回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成) OP (パソコン) 室	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2時間)
9回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する。発表練習。 パワーポイントの作成 (完成) OP (パソコン) 室	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2時間)
10回目	事例研究レポートを使用し、その内容を要約する パワーポイントの発表 教室	面接授業	予習：事例研究発表会本論を読んでおく事。パワーポイントの予習 (2時間)
11回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
12回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、事例研究本論を作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
13回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
14回目	生活支援における実践の検証 長期実習実践を検証し、パワーポイントを作成する	面接授業	復習：長期実習日誌類 予習：参考文献を探し、読んでおく事 (2時間)
15回目	介護従事者の安全 健康管理の意義と目的・こころの健康管理 教科書：介護の基本4	オンライン対応可	予習：p200～p229のテキストを読み、内容を確認しておく (2時間)
16回目	介護従事者の安全 健康管理の意義と目的・こころの健康管理 教科書：介護の基本4	オンライン対応可	復習：授業の内容を復習し、理解を深める (2時間)
17回目	介護従事者の安全 身体健康管理・労働環境の整備	オンライン対応可	予習：p231～p264を読み、内容を確認してお

	教科書：介護の基本 4		く (2時間)
18 回目	介護の基本 総まとめ 介護福祉士を取り巻く状況 社会福祉士及び介護福祉士法 テキスト介護の基本 I	オンライン対 応可	予習： p 47～p 59、 p 77～p 85を読み、内 容を確認しておく (2時間)
19 回目	介護の基本 総まとめ ICF (国際生活機能分類) リハビリテーション① テキスト介護の基本 I	オンライン対 応可	予習： p 147～p 154 p 155～p 175を読 み、内容を確認しておく (2 時間)
20 回目	介護の基本 総まとめ リハビリテーション② リハビリテーション③ テキスト介護の基本 I	オンライン対 応可	予習： p 155～p 175 を読み、内容を確認してく おく (2時間)
21 回目	介護の基本 総まとめ 多職種連携①② テキスト介護の基本 II	オンライン対 応可	予習： p 140～p 182 を読み、内容を確認してく おく (2時間)
22 回目	介護の基本 総まとめ 多職種連携①② テキスト介護の基本 II	オンライン対 応可	予習： p 140～p 182 を読み、内容を理解してく おく (2時間)
23 回目	総まとめテスト①	面接授業	予習： 18回、19回、20回 授業の内容を理解しておく
24 回目	介護の基本 総まとめ 地域連携①② テキスト介護の基本 II	オンライン対 応可	復習： p 68～p 83を読 み、内容を確認しておく (2 時間)
25 回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト②	面接授業	予習： 21回、22回授業の 内容を理解しておく
26 回目	介護の基本 総まとめ 介護職の倫理 介護における安全の確保① テキスト介護の基本 I	オンライン対 応可	予習： p 110～p 137 p 84～114を読み、内 容を確認しておく (2時間)

27 回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト③	面接授業	予習：24 回授業を理解しておく（2 時間）
28 回目	介護の基本 総まとめ 介護における安全の確保② 感染症対策 テキスト介護の基本 I	オンライン対応可	予習：84～139を読み、内容を確認しておく。（2 時間）
29 回目	介護の基本 総まとめ 総まとめテスト④	面接授業	予習：26、28 回授業 これまでの介護の基本の授業の内容を理解しておく（2 時間）
30 回目	介護の基本 総まとめ 介護職の安全①② テキスト介護の基本 I	オンライン対応可	予習：p 200～p 264を読み、内容を確認しておく（2 時間）

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 4 「介護の基本 II」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	各自、パワーポイント使用に慣れておくこと。（空きコマ・放課後等で、O P 室・自分の P C を使用して操作になれること。）
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	1. 前期はケースレポート例題をもとに、パワーポイントを使用してプレゼンテーション能力・チームワークを身につける演習をおこないます。 2. パワーポイントの使い方は各自、自学で身につけてください。前期の授業ではパワーポイントを使用できる力が必要です。 3. 後期は 1 年次に学習した内容の確認と補足が中心であり、配布資料中心の授業です。

講義科目名称：コミュニケーション A	授業コード：13131
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年生	1単位	卒：選択 介：必修	演習
担当教員				
川原ゆかり、尾村恵子				

授業概要	利用者や家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を理解し、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	演習を行いながら、クラスメイトと協力して課題に取り組み、親和的な態度でかかわることができる	演習	10%
確かな専門的知識や技能	利用者を中心とした多職種とのコミュニケーションの図り方を理解することができる	定期試験	60%
コミュニケーション能力	傾聴・受容・共感の基本的なコミュニケーション技術を身につけることができる	演習・授業参加	10%
課題解決能力	指導を受けたことを実践し、その結果を報告することができる	演習	10%
主体的に学ぶ力	周囲の助言や協力を得ながら課題を改善することができる	演習・授業参加	10%
合計			100%
補足事項			
・この授業での評価は、授業参加・態度 20%、演習 20%、定期試験 60%の割合となります。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションとは	オンライン対応可	予習：P2～5まで読む コミュニケーションに

	演習		ついでに理解を深める (1時間)
2回目	介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの対象	オンライン対応可	予習：P6～9まで読む 復習：P6～9テキスト見直し (1時間)
3回目	介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション	オンライン対応可	予習：P10～19まで読む 復習：P10～19テキスト見直し (1時間)
4回目	コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術 演習2-1	面接授業	予習：P20～32まで読む 復習：P20～32テキスト見直し (1時間)
5回目	コミュニケーションの基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 演習2-2	面接授業	予習：P33～39まで読む 復習：P33～39テキスト見直し (1時間)
6回目	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーション技術	オンライン対応可	予習：P40～55まで読む 復習：P40～55テキスト見直し (1時間)
7回目	コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術 演習2-4	面接授業	予習：P56～67まで読む 復習：P56～67テキストの見直し (1時間)
8回目	演習 ・自分のコミュニケーション力を確認をしよう！あなたは聞き上手？話し上手？ ・開かれた質問と閉ざされた質問使い分け	面接授業	復習：演習内容の理解を深める (1時間)
9回目	演習 ・リフレーミング技法を使ってコミュニケーション ・正確に伝える技法	面接授業	復習：演習内容の理解を深める (1時間)
10回目	家族とのコミュニケーション ・家族との関係づくり	オンライン対応可	予習：P162～185まで読む

	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への助言・連絡・相談の技術 ・家族関係と介護ストレスへの対応 		復習：P162～185 テキスト見直し (1時間)
11回目	介護におけるチームのコミュニケーション チームのコミュニケーションとは	オンライン対応可	予習：P186～191 まで読む 復習：P186～191 テキスト見直し (1時間)
12回目	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談の技術	オンライン対応可	予習：P192～200 まで読む 復習：P192～200 テキスト見直し (1時間)
13回目	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術 会議・議事進行・説明の技術	オンライン対応可	予習：P201～228 まで読む 復習：P201～228 テキスト見直し (1時間)
14回目	介護におけるチームのコミュニケーション 事例検討に関する技術 情報の活用と管理のための技術	オンライン対応可	予習：P229～256 まで読む 復習：P229～256 テキスト見直し (1時間)
15回目	復習・まとめ		復習：テスト範囲内見直し (1時間)

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 中央法規 必要に応じて資料配布
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業終了後、空きコマでも質疑応答行います
備考・メッセージ	

講義科目名称：コミュニケーションB	授業コード：42231
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	1	卒：選択、介：必修	演習
担当教員				
白似田 健悟				

授業概要	<p>①「コミュニケーションA」で学習したコミュニケーションの基礎を応用する力を身につける。</p> <p>②障がいの程度や種別、生活状況に応じたコミュニケーションを学び、実践する。</p> <p>③日常生活の中で利用者の心のゆとりが得られるアクティビティを提供する技術の習得を目指す。</p> <p>④対象者のニーズに沿ったアクティビティの提供方法を自ら考える力を身につける。</p> <p>⑤対象者とその家族、関連職種とのコミュニケーション力を身につける。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	コミュニケーション対象者の特徴を理解する コミュニケーション障害とは何か、を理解する	定期試験	40%
コミュニケーション能力	障がいのある方、その家族、関連職種とのコミュニケーション方法を理解する	定期試験	20%
課題解決能力	障害の程度や種別より適切にアセスメントを行い、実践し、評価する力を身につける 対象者のニーズに沿ったアクティビティの提供方法を考え、提供する力を身につける	レポート・振り返りシート 授業・演習態度	30% 10%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	“コミュニケーション”とは何か、を正しく理解し、説明することができる	面接授業	予習：コミュニケーション A で学んだ内容の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
2回目	コミュニケーション障害の理解 I	面接授業	予習：教科書 p 136～147 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
3回目	コミュニケーション障害の理解 II	面接授業	予習：教科書 p 148～160 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
4回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション I 音楽療法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
5回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション II 音楽療法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
6回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション III 音楽療法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
7回目	介護におけるチームのコミュニケーション I 価値・協力・集団	面接授業	予習：教科書 p 200～208 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
8回目	描画療法と対人援助 I 描画療法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
9回目	描画療法と対人援助 II 描画療法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
10回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション IV 回想法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
11回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション V 回想法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
12回目	利用者の特性に応じたコミュニケーション・レクリエーション VI 回想法的レクリエーション	面接授業	予習：教科書 p 161～197 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
13回目	介護におけるチームのコミュニケーション	面接授業	予習：教科書 p 209～241 の確認

	ョンII 記録		(0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
14回目	介護におけるチームのコミュニケーションIII 報告・連絡・相談・会議	面接授業	予習：教科書 p 242～257 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
15回目	介護におけるチームのコミュニケーションIV 報告・連絡・相談・会議	面接授業	予習：教科書 p 242～257 の確認 (0.5h) 復習：講義内容をまとめる (0.5h)
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会新・介護福祉士養成講座 5『コミュニケーション技術』第3版中央法規出版 その他：適時配布
履修条件	
履修上の注意	この科目は、レクリエーションインストラクター養成課程の関連科目でもあります
オフィスアワー	授業の前後で質問などを受け付けます
備考・メッセージ	演習においては、課題に対する自発的、積極的な取り組みが前提となります

講義科目名称：生活支援技術A	授業コード：21031
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	4単位	必修	演習・講義
担当教員				
尾村 恵子				

授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点より、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学ぶ</p> <p>チームアプローチのあり方・室内環境のあり方・移動・移乗における具体的な介護技術を学ぶ。家事支援における介護技術を学ぶ。応急手当や緊急時対応の方法を学ぶ。災害時における生活支援について学ぶ。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	自ら考え、適切に判断し継続して行動することができる	演習・授業参加態度	10%
確かな専門的知識や技能	生活支援技術の専門的知識と技能を実践することができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	かかわりを示すための基本動作、納得と同意を得る技法を実践することができる。	演習・授業参加態度	10%
課題解決能力	指導したことを実践し、その結果を報告しながら疑問点を相談することができる。	演習・授業参加態度	10%
主体的に学ぶ力	尊厳を支える介護とはどのような介護か考えることができる。	演習・授業参加態度	10%
合計			100%
補足事項			
演習・授業への参加・態度 40%、定期試験で 60%の割合で評価します。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「生活支援の基本的考え方」 生活支援について理解する。 生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解する。	オンライン 対応可	予習：テキスト P2～P21 を読み、内容を理解する（I）（0.5時間）
2回目	「生活支援と介護過程」 ICF の視点を持ち、利用者の全体像、個別性を知る。 根拠ある生活支援技術を学ぶ。	オンライン 対応可	予習：テキスト P12～P21 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P2～P11 を読む（I）（0.5時間）
3回目	「居住環境の整備」 住まいの役割と生活空間を学ぶ	オンライン 対応可	予習：テキスト P32～P45 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P12～P21 を読む（I）（0.5時間）
4回目	「居住環境の整備」 加齢の影響と、安全な生活環境を学ぶ	オンライン 対応可	予習：テキスト P38～P63 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P32～P45 を読む（I）（0.5時間）
5回目	「福祉用具の意義」 生活支援における福祉用具の重要性 福祉用具の種類	オンライン 対応可	予習：テキスト P194～P207 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P38～P63 を読む（I）（0.5時間）
6回目	「福祉用具の意義」 適切な福祉用具を選ぶための視点	オンライン 対応可	予習：テキスト P208～P213 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P194～P207 を読む（I）（0.5時間）
7回目	「休息・睡眠の介護」 休息と睡眠とは	オンライン 対応可	予習：テキスト P227～232、P236～240 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P208～P213 を読む（I）（0.5時間）
8回目	「休息・睡眠の介護」 休息と睡眠とは	オンライン 対応可	予習：テキスト P227～232、P236～240 を読む（I）（0.5時間） 復習：テキスト P227～232、P236～240 を読む（I）（0.5時間）
9回目	「休息・睡眠の介護」	面接授業	予習：テキスト P227～232、

	ベットメイキングの方法について学ぶ（演習）		P236～240 を読む（I）（0.5 時間） 復習：ベッドメイキング練習（0.5 時間）
10 回目	「休息・睡眠の介護」 ベットメイキングの方法について学ぶ（演習）	面接授業	予習：テキスト P 227～232、 P236～240 を読む（I）（0.5 時間） 復習：ベッドメイキング練習（1 時間）
11 回目	「休息・睡眠の介護」 ベットメイキングの方法について学ぶ（実技テスト）	面接授業	予習：テキスト P 227～232、 P236～240 を読む（I）（0.5 時間） 復習：ベッドメイキング練習（1 時間）
12 回目	「休息・睡眠の介護」 ベットメイキングの方法について学ぶ（実技テスト）	面接授業	予習：テキスト P 227～232、 P236～240 を読む（I）（0.5 時間） 復習：ベッドメイキング練習（1 時間）
13 回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは	オンライン対応	予習：テキスト P82～96 を読み、内容を理解する（I）（0.5 時間）
14 回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは	オンライン対応	予習：テキスト P82～96 を読み、内容を理解する（I）（0.5 時間）
15 回目	「移動の介護」 端坐位～立位～車いす移乗 車いすの正しい姿勢・使い方	面接授業	予習：テキスト P136～P152、 P133～P135 を読む（I）（0.5 時間） 復習：テキスト P82～96 を読む（I）（0.5 時間）
16 回目	「移動の介護」 端坐位～立位～歩行 歩行の介助 杖歩行	面接授業	予習：テキスト p 177～p 182 を読む（I）（0.5 時間） 復習：テキスト P136～P152、 P133～P135 を読む（I）（0.5 時間）
17 回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（演習） ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移	面接授業	予習：テキスト P143～P152 を読む（I）（0.5 時間） 復習：テキスト p 177～p 182

	動		を読む（Ⅰ）（0.5時間）
18回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（演習） ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動	面接授業	予習：テキスト P143～P152、 P163～168 を読む（Ⅰ）（0.5時間） 復習：ベッドから車いすへの移乗練習（1時間）
19回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（演習） ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動	面接授業	予習：テキスト P153～168 を読む（Ⅰ）（0.5時間） 復習：ベッドから車いすへの移乗練習（1時間）
20回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（演習） ベッドから車いすへの移乗～車いすでの移動	面接授業	予習：テキスト P153～168 を読む（Ⅰ）（0.5時間） 復習：ベッドから車いすへの移乗練習（1時間）
21回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（実技テスト）	面接授業	各自で練習をしておく（1時間）
22回目	「自立に向けた移動の介護」 自立した移動とは（実技テスト）	面接授業	各自で練習をしておく（1時間）
23回目	「自立に向けた食事の介護」 「自立に向けた身じたくの介護」 食事の意義と目的 口腔ケアの意義と目的 自立に向けた食事の介護	オンライン 対応可	予習：テキスト P74～101、 P28～46 を読み、内容を理解しておく（Ⅱ）（0.5時間）
24回目	「自立に向けた食事の介護」 食卓の食事介助、車椅子での食事の介助 口腔ケアの方法（演習）	面接授業	復習：テキスト P74～101、 P28～46 を読む（Ⅱ）（0.5時間）
25回目	「自立に向けた食事の介護」 ベット上での食事の介助（演習） 口腔ケアの方法（演習）	面接授業	復習：テキスト P74～101、 P28～46 を読む（Ⅱ）（0.5時間）
26回目	「身支度の介護」 着脱衣の意義目的	オンライン 対応可	予習：テキスト P47～P58 を読み、内容を理解する（0.5時間）
27回目	「身支度の介護」 上着の着脱（前開き・かぶり上着、ズボン） （演習）	面接授業	予習：テキスト P51～P58 を読み、内容を理解しておく（0.5時間） 復習：上着の着脱の練習（1時間）
28回目	「身支度の介護」	面接授業	復習：衣服着脱の練習（1時間）

	ベット上での衣服着脱 (上・下)		間)
29 回目	「身支度の介護」 衣服着脱実技テスト	面接授業	復習：身支度の介護の内容を理解する(1時間)
30 回目	「身支度の介護」 衣服着脱実技テスト	面接授業	復習：身支度の介護の内容を理解する(1時間)
31 回目	「入浴の介護」 自立した入浴・清潔保持とは	オンライン 対応可	予習：テキスト P104～116,123、124、132、144～146を読む(0.5時間)
32 回目	「入浴の介護」 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	オンライン 対応可	予習：テキスト P104～116,123、124、132、144～146を読む(0.5時間)
33 回目	「入浴の介護」 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 皮膚のしくみ	オンライン 対応可	予習：こころとからだのしくみ P174～P180 (0.5時間) 復習：テキスト P108～116,123、124、132、144～146を読む(0.5時間)
34 回目	「入浴の介護」 入浴・清潔保持におけるアセスメント	オンライン 対応可	予習：テキストP134～136を読んでおく(0.5時間) 復習：こころとからだのしくみ P174～P180 (0.5時間)
35 回目	「入浴の介護」 入浴介助の方法：手浴(演習)	面接授業	予習：テキスト P134～P136を読んで、理解しておく(0.5時間) 復習：手浴の介助方法の練習(1時間)
36 回目	「入浴の介護」 入浴介助の方法：足浴(演習)	面接授業	予習：テキスト P137～P141を読んで、理解しておく(0.5時間) 復習：足浴の介助方法の練習(1時間)
37 回目	「入浴の介護」 入浴介助方法：個浴(演習)	面接授業	予習：テキスト P111～P116 復習：個浴介助方法の練習(予習復習1時間)
38 回目	「入浴の介護」 入浴介助方法：個浴(演習)	面接授業	予習：テキスト P111～P116 復習：個浴介助方法の練習(予習復習1時間)

39 回目	「入浴の介護」 個浴実技テスト	面接授業	復習：個浴介助方法の練習 (1 時間)
40 回目	「入浴の介護」 個浴実技テスト	面接授業	復習：個浴介助方法の練習 (1 時間)
41 回目	「入浴の介護」 機械浴を使用しての入浴	面接授業	予習：テキスト P117～P120 を読む (0.5 時間) 復習：機械浴での介助方法の 練習 (1 時間)
42 回目	「入浴の介護」 機械浴を使用しての入浴	面接授業	予習：テキスト P117～P120 を読む (0.5 時間) 復習：機械浴での介助方法の 練習 (1 時間)
43 回目	「機械浴での入浴介助」 実技テスト	面接授業	復習：機械浴での介助方法の 練習 (1 時間)
44 回目	「機械浴での入浴介助」 実技テスト	面接授業	復習：機械浴での介助方法の 練習 (1 時間)
45 回目	「排泄の介護」 自立した排泄とは 排泄における介護技術	オンライン 対応可	予習：テキスト P158～P193 を読む (0.5 時間)
46 回目	「排泄の介護」 尿と便のしくみ 排尿・排便障害	オンライン 対応可	予習：テキスト P194～P207 を読む (0.5 時間)
47 回目	「排泄の介護」 ポータブルトイレ介助 (演習)	面接授業	予習：テキスト P170～174 を読み、手順を覚えておく 復習：P トイレ介助の練習 (予習・復習時間 1 時間)
48 回目	「排泄の介護」 ポータブルトイレ介助 (演習)	面接授業	予習：テキスト P170～174 を読み、手順を覚えておく 復習：P トイレ介助の練習 (予習・復習時間 1 時間)
49 回目	「排泄の介護」 尿器を使用した介助方法 (演習)	面接授業	予習：テキスト P178～181、 P132～134 を読み、手順を覚 えておく。 復習：尿器での介助練習 (予習・復習時間 1.5 時間)
50 回目	「排泄の介護」 差し込み便器での介助方法 (演習)	面接授業	予習：テキスト P182～186 を 読み、手順を覚えておく 復習：差し込み便器での介助

			練習(予習・復習時間 1.5 時間)
51 回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助 (演習)	面接授業	予習:テキスト P187～193 を読み、手順を覚えておく 復習:おむつでの排泄介助練習(予習・復習時間 1.5 時間)
52 回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助 (演習)	面接授業	予習:テキスト P187～193 を読み、手順を覚えておく 復習:おむつでの排泄介助練習(予習・復習時間 1.5 時間)
53 回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助実技テスト	面接授業	復習:おむつでの排泄介助練習 (1.5 時間)
54 回目	「排泄の介護」 おむつでの排泄介助実技テスト	面接授業	復習:おむつでの排泄介助練習 (1.5 時間)
55 回目	「人生の最終段階における介護」 人生の最終段階の意義と介護の役割	オンライン 対応可	予習:テキスト P250～P262 を読む (0.5 時間)
56 回目	「人生の最終段階における介護」 人生の最終段階の介護における多職種との連携	オンライン 対応可	予習:テキスト P263～P284 を読む (0.5 時間)
57 回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し (演習)	面接授業	復習:これまでの授業内容 (0.5 時間)
58 回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し (演習)	面接授業	復習:これまでの授業内容 (0.5 時間)
59 回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	オンライン 対応可	復習:これまでの授業内容 (0.5 時間)
60 回目	「生活支援技術総括」 生活支援技術の基礎知識の見直し	オンライン 対応可	復習:これまでの授業内容 (0.5 時間)

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布します
履修条件	実習室での演習には、教室での講義を復習して臨んでください。 演習は「考える⇒実践する⇒考える」この繰り返しをより多く実践した学生

	が上達します。 演習は、ドレスコード（エプロン・ジャージ・室内履き等）を守る事。
履修上の注意	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問を受け付けます。
オフィスアワー	質問がある際は、空きコマ等に受け付けます。
備考・メッセージ	実習室での演習後、各自、実習室にて実技演習を自習してください。実習室のカギは、研究室にて貸し出します。

講義科目名称：生活支援技術 B	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	2単位	必修	演習
担当教員				
木村 貞子				

授業概要	家庭生活、被服、住生活について利用者が自立に向けた家事の介助、多職種との連携を援助の視点から、実習を中心とした学習を行う。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・家庭の機能、住居の機能を理解し、 知識を身につける。 ・被服の機能を理解し、製作を通して 支援技術の技能を習得する	・定期試験 ・作品の提出	40% 40%
コミュニケーション能力	・在学においてグループ内で討議し、 利用者に対する家事援助能力を高める	・グループディスカッション ・レポート提出	5%
課題解決能力	・基礎技術を身に着け、作品を完成させる。	・作品の提出	10%
主体的に学ぶ力	・作品を完成させることで知識と技術 を身につけ介護師としての資質が 高まることを学ぶ	・授業態度	5%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では定期試験 40% 作品の提出 40% 授業への参加、作品の完成度 20% の割合で評価する。 ・レポートは紙媒体で提出する 			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	家庭管理	洗濯・漂白・洗剤	
2回目	家庭管理	しみ抜き・仕上げ・保管	

3回目	家庭管理	衣類、寝具の衛生管理	
4回目	住生活	快適な室内環境、環境整備、そうじ、ごみすて	
5回目	裁縫	糸と針の関係（ミシン・手縫い）	
6回目	裁縫	あづま袋製作（並み縫い、玉結び、玉止め）	てぬぐいの準備
7回目	裁縫	袋物製作（刺し子）裁断	布、刺し子用糸、裁縫用具の準備
8回目	裁縫	袋物製作 刺し子	布、刺し子用糸、裁縫用具の準備
9回目	裁縫	袋物製作 ミシン（三つ折り縫い・ひもつけ）、手縫（まつり）	ミシンの準備
10回目	裁縫	袋物製作 仕上げ	ミシンの準備
11回目	裁縫	クッション製作（ミシン直線縫い）	ミシンの準備
12回目	家庭経営	家庭経済・収入と支出、リスク管理	
13回目	家計の管理	消費者問題 契約トラブルと対策 消費者信用	クーリング・オフの復習
14回目	家事の介護における多職種との連携	在宅の場合	教科書該当箇所の予習
15回目	家事の介護における多職種との連携	施設の場合	教科書該当箇所の予習
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	実習の際は製作進度が順調にいくよう材料や道具を忘れないこと

講義科目名称：生活支援技術B	授業コード：11131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	2単位	必修	演習
担当教員				
木村 貞子				

授業概要	家庭生活、被服、住生活について利用者が自立に向けた家事の介助、多職種との連携を援助の視点から、実習を中心とした学習を行う。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・家庭の機能、住居の機能を理解し、 知識を身につける。 ・被服の機能を理解し、製作を通して 支援技術の技能を習得する	・定期試験 ・作品の提出	40% 40%
コミュニケーション能力	・在学においてグループ内で討議し、 利用者に対する家事援助能力を高める	・グループディスカッション ・レポート提出	5%
課題解決能力	・基礎技術を身に付け、作品を完成させる。	・作品の提出	10%
主体的に学ぶ力	・作品を完成させることで知識と技術 を身につけ介護士としての資質 が高まることを学ぶ	・授業態度	5%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では定期試験 40% 作品の提出 40% 授業への参加、作品の完成度 20% の割合で評価する。 ・レポートは紙媒体で提出する 	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	家庭管理：洗濯・漂白・洗剤	対面授業	
2回目	家庭管理：しみ抜き・仕上げ・保管	対面授業	
3回目	家庭管理：衣類、寝具の衛生管理	対面授業	
4回目	住生活：快適な室内環境、環境整備、そう	対面授業	

	じ、ごみすて		
5回目	裁縫：糸と針の関係（ミシン・手縫い）	対面授業	
6回目	裁縫：あづま袋製作（並み縫い、玉結び、玉止め）	対面授業	てぬぐいの準備
7回目	裁縫：袋物製作（刺し子）裁断	対面授業	布、刺し子用糸、裁縫用具の準備
8回目	裁縫：袋物製作 刺し子	対面授業	布、刺し子用糸、裁縫用具の準備
9回目	裁縫：袋物製作 ミシン（三つ折り縫い・ひもつけ）、手縫（まつり）	対面授業	ミシンの準備
10回目	裁縫：袋物製作 仕上げ	対面授業	ミシンの準備
11回目	裁縫：クッション製作（ミシン直線縫い）	対面授業	ミシンの準備
12回目	家庭経営：家庭経済・収入と支出、リスク管理	対面授業	
13回目	家計の管理：消費者問題 契約トラブルと対策消費者信用	対面授業	クーリング・オフの復習
14回目	家事の介護における多職種との連携（在宅）	対面授業	教科書該当箇所の子習
15回目	家事の介護における多職種との連携（施設）	対面授業	教科書該当箇所の子習
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト最新介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」中央法規
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します
備考・メッセージ	実習の際は製作進度が順調にいくよう材料や道具を忘れないこと

講義科目名称：生活支援技術C	授業コード：42031
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2	2	卒：選択 介：必修	演習
担当教員				
白似田 健悟				

授業概要	多種多様な障害のある利用者に対して、様々な手法の生活援助技術を用いて、安全に援助できる知識・技術を習得できる
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	内部障害・精神障害の理解と生活支援について理解できる 視覚・聴覚・言語障害等の理解と生活支援について理解できる 知的・発達障害、高次脳機能障害等の理解と生活支援について理解できる	定期試験 レポート 課題への取組	40% 5% 10%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	障害に応じた生活支援技術とは何か、について説明できる 終末期について考え、その生活支援について理解できる	定期試験 レポート 課題への取組	30% 5% 10%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	心臓機能障害のある人の理解と生活支援介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
2回目	心臓機能障害のある人の理解と生活支援介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
3回目	腎臓機能障害のある人の理解と生活支援、	面接授業	予習：(h)

	介護技術		復習：(h)
4回目	呼吸機能障害のある人の理解と支援方法 介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
5回目	呼吸機能障害のある人の理解と支援方法 介護技術の展開と他職種との連携・協働	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
6回目	膀胱・直腸機能障害の特性と支援方法及び 留意点	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
7回目	肝臓機能障害の特性と、その支援方法及び 留意点	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
8回目	精神障害者の特性や生活の理解、生活支援 方法	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
9回目	精神障害者に対する介護技術の展開と他職 種との協働と連携	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
10回目	障害をもつ利用者の状態、状況に応じた生 活支援技術とは 社会福祉士及び介護福祉士の定義の変遷と 利用者のニーズについて	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
11回目	視覚障害のある人の生活の理解および支援 と環境整備	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
12回目	視覚障害者に対する介護技術の展開と他職 種の役割と協働・連携 社会資源の利用・視覚障害のある人の生活	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
13回目	聴覚障害に応じた介護 聞こえの障害・聴力検査・補聴器について	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
14回目	聴覚障害者に対するコミュニケーションと 支援	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
15回目	言語障害のある人の特徴および配慮	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
16回目	重複障害に応じた介護 聴覚障害および言語障害のある人の生活	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
17回目	盲ろう者と生活の理解および介護技術の展 開 他職種との役割と協働、連携（演習）	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
18回目	運動機能障害と道常生活動作（ADL）	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
19回目	運動機能障害のある人の生活支援（1） 運動器疾患による障害と支援	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
20回目	運動機能障害のある人の生活支援（2）	面接授業	予習：(h)

	神経・筋疾患による障害と支援		復習：(h)
21 回目	知的障害のある人と生活の理解・心理的理解・医学的理解 他職種の役割と協働・連携	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
22 回目	知的障害者の地域生活における課題および演習	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
23 回目	障害者に関する法律と相談支援事業の現状と課題	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
24 回目	高次脳機能障害のある人と生活の理解	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
25 回目	高次脳機能障害のある人の残存能力の拡大およびネットワークづくりと介護技術の展開	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
26 回目	発達障害の特性と個別支援計画および介護技術の展開	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
27 回目	発達障害のある人に対する他職種の役割と協働、連携	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
28 回目	重症心身障害のある人の生活の理解と支援 介護技術の展開および連携と協働	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
29 回目	終末期ケアの意味と理念	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
30 回目	終末期の介護における他職種の役割と協働、連携	面接授業	予習：(h) 復習：(h)
31 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：新介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』第3版介護福祉士養成講座編集委員会中央法規出版 新介護福祉士養成講座8『生活支援技術Ⅲ』第3版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問などを受け付けます
備考・メッセージ	

講義科目名称: 生活支援技術 D	授業コード: 34041
英文科目名称:	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2年	2単位	必修	演習・講義
担当教員				
太田 茂美、尾村 恵子				

授業概要	<p>①利用者の生活歴や個別性を踏まえ、アセスメントからレクリエーション援助を提案できる技術を習得する。</p> <p>②1年次に学んだ、移動・移乗、身じたく、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活支援技術を復習し、根拠のある生活支援技術の基本を身につける。</p> <p>③介護実習を通して学んだ知識、技術をもとに、利用者のアセスメントに即した生活支援技術の演習をグループで話し合いながらとりくむことができる。その中から技術の実践力、応用力を身につける。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	演習の実践において、自らの課題に取り組みながらクラスメイトの課題にも共に向き合いチームで行動することができる。	演習	10%
確かな専門的知識や技能	生活支援技術の専門的知識と技術の根拠を理解して、実践することができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	利用者の特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。	演習	10%
課題解決能力	ストレングス・エンパワメントの知識・技能を生活支援の場面で効果的に活用することができる	演習	10%
主体的に学ぶ力	自らの生活支援技術の課題を見つけ、その改善に取り組むことが出来る	演習、授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

- ・本授業では 定期試験 60%、演習 30%、演習、授業への参加・態度 10%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「レクリエーション援助」 レクリエーションの意義・目的	面接授業（オンライン対応可能）	予習：レクリエーションインストラクターについて調べておくこと (1時間)
2 回目	レクリエーションインストラクターの役割 期待される役割、活動の実際	面接授業（オンライン対応可能）	復習：配布資料 予習：教科書 p 15～ p 17 (1時間)
3 回目	楽しさと心の元気づくりの理論 活動の楽しさ、2つの視点	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまで学修した内容 予習：教科書 p 20～ p 28 (1時間)
4 回目	楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまで学修した内容 予習：教科書 p 29～ p 32 (1時間)
5 回目	計画立案方法 三つの基本的支援（個人・集団・環境）の具体例	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
6 回目	計画立案方法 三つの基本的支援（個人・集団・環境）の具体例	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
7 回目	レクリエーション作成 レクリエーションの作成方法	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
8 回目	レクリエーション作成 班分け・計画・作成	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
9 回目	レクリエーション作成 作成	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
10 回目	レクリエーション発表 レクリエーション実技試験	面接授業	復習・予習これまで学修した内容 (1時間)
11 回目	根拠に基づいた移動・移乗の介助方法の確認（演習）	面接授業	復習：移動・移乗の練習 (2時間)
12 回目	根拠に基づいた移動・移乗の介助方法の確認（演習）	面接授業	復習：移動・移乗の練習 (2時間)

13 回目	根拠に基づいた移動・移乗の介助方法の確認（演習）	面接授業	復習：移動・移乗の練習（2 時間）
14 回目	根拠に基づいた移動・移乗の介助方法の確認（演習）	面接授業	復習：移動・移乗の練習（2 時間）
15 回目	根拠に基づいた移動・移乗の介助方法の確認（演習）	面接授業	復習：移動・移乗の練習（2 時間）
16 回目	移動・移乗 実技テスト	面接授業	予習：移動・移乗の練習（2 時間）
17 回目	移動・移乗 実技テスト	面接授業	予習：移動・移乗の練習（2 時間）
18 回目	根拠に基づいた入浴介助の確認（演習）	面接授業	復習：入浴介助の練習（2 時間）
19 回目	根拠に基づいた入浴介助の確認（演習）	面接授業	復習：入浴介助の練習（2 時間）
20 回目	根拠に基づいた入浴介助の確認（演習）	面接授業	復習：入浴介助の練習（2 時間）
21 回目	根拠に基づいた入浴介助の確認（演習）	面接授業	復習：入浴介助の練習（2 時間）
22 回目	入浴介助実技テスト	面接授業	予習：入浴介助の練習（2 時間）
23 回目	入浴介助実技テスト	面接授業	予習：入浴介助の練習（2 時間）
24 回目	根拠に基づいた排泄介助	面接授業	復習：排泄介助の練習（2 時間）
25 回目	根拠に基づいた排泄介助	面接授業	復習：排泄介助の練習（2 時間）
26 回目	根拠に基づいた排泄介助	面接授業	復習：排泄介助の練習（2 時間）
27 回目	根拠に基づいた排泄介助	面接授業	復習：排泄介助の練習（2 時間）
28 回目	排泄介助実技テスト	面接授業	予習：排泄介助の練習（2 時間）
29 回目	排泄介助実技テスト	面接授業	予習：排泄介助の練習（2 時間）
30 回目	生活支援技術まとめ	オンライン対応可	復習：テスト範囲見直し（2 時間）

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	<p>最新 介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「楽しさをとおした心の元気づくり」日本レクリエーション協会出版</p> <p>参考：日本レクリエーション協会 「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会出版</p> <p>テキストを補うために必要に応じて資料を配布する</p>
履修条件	
履修上の注意	<p>演習では、1年生時に学んだ、生活支援技術Aの授業・演習内容をしっかり復習して授業に臨んでください。演習は「考えて⇒実践して⇒考える」この繰り返しを実践した学生が上達します。各自、空きコマを利用して、実習室での実技練習に取り組んでください。</p>
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください

講義科目名称：介護過程 I	授業コード：32141
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	必修	演習
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>介護過程の意義・目的を学び、生活支援における介護過程の必要性を理解する。介護過程の展開の方法を学び、アセスメント（ICF）の方法について理解を深める。</p> <p>①介護過程の意義・目的を理解することができる。</p> <p>②介護過程とICFの関係を理解することができる。</p> <p>③生活支援における介護過程の必要性を理解出来る。</p> <p>④介護過程の展開について理解できる。</p> <p>⑤ICFモデルを活用したアセスメントを理解できる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開が、介護が必要な人の生活の継続性のために必要であることを理解出来る。 ・ICFモデルを活用した情報収集について理解できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	丁寧な字で、介護過程資料を書くことができる。	レポート	10%
課題解決能力	・ニーズ、生活課題についてICFモデルを活用しながら、情報を収集することができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	介護過程を実践していく上での、生活課題を理解し、積極的に演習をすることができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

- ・本授業では 定期試験 70%、レポート 20%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「介護過程とは」 介護過程の展開と基本的視点	面接授業（オンライン対応可能）	予習：テキスト p 2～6 （1時間）
2 回目	介護過程の全体像	面接授業（オンライン対応可能）	復習：テキスト p 2～6 予習：テキスト p 6～9 （1時間）
3 回目	「生活支援の考え方と介護過程の必要性①」 生活支援における介護過程の意義と事例検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：テキスト p 6～9 予習：p 12～p 15 （1時間）
4 回目	「生活支援の考え方と介護過程の必要性②」 生活支援における介護過程の意義と事例検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：p 12～p 15 予習：p 16～p 17 （1時間）
5 回目	「介護過程の理解」 アセスメントとは	面接授業	予習：p 20～p 21 （1時間）
6 回目	介護過程の展開	面接授業	復習：p 20～p 21 予習：p 22～p 24 （1時間）
7 回目	アセスメント	面接授業	復習：p 22～p 24 予習：p 25～p 27 （1時間）
8 回目	介護過程の展開の 8 つの視点①	面接授業	復習：p 25～p 27 （1時間）
9 回目	介護過程の展開の 8 つの視点②	面接授業	復習：第 8 回授業内容 （1時間）
10 回目	アセスメント事例演習 （場面 1・場面 2）	面接授業	復習：5 回～9 回授業 （1時間）
11 回目	アセスメントの方法 知識・方法・観察の視点（図・表）	面接授業	予習：p 27～p 28 （1時間）

12 回目	アセスメント ICF モデル	面接授業	予習： p 2 9 ～ p 3 3 (1 時間)
13 回目	アセスメント ICF モデル① 方法・留意点	面接授業	復習： p 2 9 ～ p 3 3 (1 時間)
14 回目	アセスメント ICF モデル② 方法・留意点	面接授業	復習： p 2 9 ～ p 3 3 (1 時間)
15 回目	アセスメント ICF モデル③ 基礎例題・演習	面接授業	復習：これまでの授業 (1 時間)
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	介護過程は、他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を、実際の利用者の支援に向けてどのようにいかしていくかを考える科目です。次回の授業範囲（テキスト）をよく読み、その内容の理解を深めるように努力してください。そうすることで、授業の理解を深めることができます。
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。

講義科目名称：介護過程Ⅱ	授業コード：31241
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	必修	演習
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>生活支援技術やコミュニケーション技術の活用と共にアセスメント（１）ICF、（２）の概念を理解する。1事例をもとに、アセスメント（１）ICF、（２）のマニュアルを作成する。</p> <p>①アセスメント（１）ICFを活用し情報収集を行いながら、個別の生活課題や潜在能力について考えることができる。</p> <p>②アセスメント（２）の目的・情報収集の方法を理解できる。</p> <p>③アセスメント（２）における、情報の解釈・関連付け・統合化を理解できる。</p> <p>④アセスメント（２）において、生活課題を明確化し、優先順位を付けることができる。</p> <p>⑤事例を用いたマニュアルの整備と活用ができる。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・アセスメント（１）（２）を通して、目標達成のために計画を立てることができる。	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	・アセスメント（１）（２）の作成において、3領域（社会・介護・こころとからだ）の知識を活かすことができる。 ・生活課題の解決にむけて、優先順位の付け方を学ぶ事ができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	アセスメント（１）（２）の作成において、多職種と連携した支援を予想しながら、生活課題の解決を考えることができる。	レポート	10%
課題解決能力	・アセスメント（１）（２）の作成において、情報から生活課題を推測することができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	・生活課題の解決において、尊厳を支える介護を考えることができる。	レポート	10%

合計	100%
補足事項	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	介護過程の理解	ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習①	予習：テキスト p 30～p 33
2回目	介護過程の理解	ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習②	復習：前回授業
3回目	介護過程の理解	ICFモデルを活用した情報収集 Bさん事例演習③	復習：前回授業
4回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解① 情報の解釈・関連付け・統合化	復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38
5回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解② 情報の解釈・関連付け・統合化	復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38
6回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解③ アセスメントの3つの視点	復習：前回までの授業 予習：p 36～p 38
7回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解④ Bさん事例演習 p 45表2-5を用い、生活像からイメージを描く	復習：p 22～p 24 予習：p 25～p 27
8回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解⑤ p 46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連付け・解釈・統合化を行う	復習：前回の授業 予習 p 47～p 50
9回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解⑥ p 46表2-6、生活像の関連付けから、情報の関連付け・解釈・統合化を行う	復習：前回の授業 予習 p 47～p 50
10回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解⑦ Bさん事例演習 生活課題の明確化	復習：前回授業 予習 p 50～p 55
11回目	介護過程の理解	アセスメント（2）の理解⑧	復習：前回授業

		Bさん事例演習 生活課題の明確化	予習 p 5 0 ~ p 5 5
12 回目	介護過程の理解	アセスメント (2) の理解⑨ Bさん事例演習 生活課題の優先順位	復習：前回授業 予習：p 6 1 ~ p 6 4
13 回目	介護過程の理解	アセスメント (1) (2) 見本作成 Bさん事例を元に、マニュアル作成	復習：Bさん事例
14 回目	介護過程の理解	アセスメントマニュアル製本 情報収集コード集の作成	復習：これまでの授業
15 回目	介護過程の理解	介護計画の立案① 個別援助計画とは Bさん事例にて優先順位の設定	復習：テキスト p 3 3 ~ p 5 5 予習：p 5 9 ~ p 6 4

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	介護過程の展開において、アセスメント (2) は非常に重要です。授業の理解を深めるために、次の授業の予習 (テキストを読む) を行ってください。そうすることで授業の理解が深まります。
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。

講義科目名称：介護過程Ⅲ	授業コード：12141
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期～前期	1年～2年	2単位	必修	演習
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>アセスメント（１）、（２）を作成し、個別援助計画を立案することができる。評価（モニタリング）の意義と目的を理解し、計画の継続・修正をすることができる。事例演習に取り組み、学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合することができる。</p> <p>①介護過程Ⅱで作成した、事例マニュアルを参考に、他事例の介護過程の展開が出来る。</p> <p>②アセスメント（１）において、個別の生活課題、潜在能力を見極めることができる。</p> <p>③アセスメント（２）を作成できる。</p> <p>④アセスメント（１）（２）から、個別援助計画を立案できる。</p> <p>⑤評価（モニタリング）について理解できる。</p> <p>⑥自立支援に沿った個別援助計画の立案・実施・評価・他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。</p> <p>⑦3領域「こころとからだのしくみ」「社会の理解」「介護」の分野から学んだことを介護過程の展開に活かすことができる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・個別性を理解し、本人の望む生活を第一に、個別援助計画を立案することができる。	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	・アセスメント（１）（２）によって、その人の思いを推測し、生活課題を導き出すことができる。 ・3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案することができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	・利用者の特性に応じた個別援助計画の立案をすることができる。	レポート	10%
課題解決能力	・ストレングス・エンパワメントの知識、技能を効果的に活用し介護過程の	レポート	10%

	展開ができる。		
主体的に学ぶ力	課題の改善について評価することができる。	レポート	10%
合計			100%
補足事項			
・ 対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	介護過程の理解	介護計画の立案② Bさん事例にて支援内容・支援方法の決定	復習：前回授業 予習：p 65～p 67
2 回目	介護過程の理解	事例1 Aさん演習 アセスメント（1）	復習：Bさん事例 予習：p 86～p 91
3 回目	介護過程の理解	事例1 Aさん演習 アセスメント（1）	復習：p 33～p 55 予習：p 86～p 91
4 回目	介護過程の実践的展開	事例1 Aさん演習 アセスメント（2）	復習：p 86～p 91 予習：p 92～p 93
5 回目	介護過程の実践的展開	事例1 Aさん演習 アセスメント（2）	復習：p 92～p 93 予習：p 92～p 93
6 回目	介護過程の実践的展開	事例1 Aさん演習 個別援助計画	復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95
7 回目	介護過程の実践的展開	事例2 Dさん演習 アセスメント（1）	復習：Bさん・Aさん事例 予習：p 99～p 104
8 回目	介護過程の実践的展開	事例2 Dさん演習 アセスメント（1）	復習：p 99～p 104 予習：p 99～p 104
9 回目	介護過程の実践的展開	事例2 Dさん演習 アセスメント（2）	復習：p 99～p 104 予習：p 105～p 106
10 回目	介護過程の実践的展開	事例2 Dさん演習 アセスメント（2）	復習：p 99～p 104 予習：p 105～p 106
11 回目	介護過程の実践的展開	事例2 Dさん演習 個別援助計画	復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108
12 回目	介護過程の実践的	事例3 Hさん演習	復習：Bさん・Aさん事例

	展開	アセスメント（１）	予習：p 112～p 116
13回目	介護過程の実践的 展開	事例3 Hさん演習 アセスメント（１）	復習：p 112～p 116 予習：p 117～p 118
14回目	介護過程の実践的 展開	事例3 Hさん演習 アセスメント（２）	復習：p 112～p 118 予習：p 117～p 118
15回目	介護過程の実践的 展開	事例3 Hさん演習 アセスメント（２）	復習：p 112～p 118 予習：p 117～p 118
16回目	介護過程の実践的 展開	事例3 Hさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 112～p 118 予習：p 119～p 120
17回目	介護過程の実践的 展開	事例3 Hさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 112～p 118 予習：p 119～p 120
18回目	介護過程の実践的 展開	事例1 Aさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95
19回目	介護過程の実践的 展開	事例1 Aさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 86～p 93 予習：p 94～p 95
20回目	介護過程の実践的 展開	事例2 Dさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108
21回目	介護過程の実践的 展開	事例2 Dさん演習 個別援助計画 (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 99～p 106 予習：p 107～p 108
21回目	介護過程の理解	介護の実施 介護の実施とは (オンラインリアルタイム授業)	予習：p 69～74
22回目	介護過程の理解	評価 意義と目的、内容と方法 (オンラインリアルタイム授業)	予習：p 75～p 79
23回目	介護過程の実践的 展開	事例1 Aさん演習 評価（モニタリング） (オンラインリアルタイム授業)	復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98
24回目	介護過程の実践的 展開	事例1 Dさん演習 評価（モニタリング）	復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98
25回目	介護過程の実践的 展開	事例1 Hさん演習 評価（モニタリング）	復習：p 86～p 95 予習：p 96～p 98

26 回目	介護過程の実践的展開	配布資料事例①からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する	復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする
27 回目	介護過程の実践的展開	配布資料事例①からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する	復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする
28 回目	介護過程の実践的展開	配布資料事例①からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する	復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする
29 回目	介護過程の実践的展開	配布資料事例②からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する	復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする
30 回目	介護過程の実践的展開	配布資料事例②からアセスメントに基づき介護計画（個別援助計画）を立案する	復習：配布資料の読み返し 予習：配布資料に基づき、アセスメント（１）（２）個別援助計画の作成をする

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	介護過程Ⅲでは、事例演習が重要なポイントです。その為には、予習を中心とした学習が大切です。予習をしている学生と、していない学生では、授業の理解に大きな差が生じます。教科書をよく読み、授業に参加してください。
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。

講義科目名称：介護過程Ⅳ	授業コード：31041
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2年	1単位	必修	演習
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>介護過程の理論と演習体験を関連づけながら、介護過程の展開ができる。</p> <p>①事例から個別援助計画が作成できる。</p> <p>②長期実習で実践した個別援助計画の振り返りをすることができる。</p> <p>③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解できる。</p> <p>④自身が立案した個別援助計画を他学生と意見交換しながら、自分自身に不足している視点を、グループワークを通して自ら学び取ることができる。</p> <p>⑤介護福祉士として使命感をもち、学び続ける態度を身につけることができる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・グループワークにおいて他学生の意見に耳を傾け、お互いに協力しながら個別援助計画を修正する事ができる。	グループディスカッション	10%
確かな専門的知識や技能	・3領域の知識を活かし、根拠を示しながら個別援助計画を立案し、効果的な支援計画を作成することができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	・根拠のある介護過程展開をイメージしながら、他学生とのコミュニケーションを通して生活課題の解決策を考えることができる	グループディスカッション	10%
課題解決能力	・長期実習における介護過程の展開（アセスメント（1）（2）、個別援助計画実践）の結果を評価し、課題を考え改善することができる	レポート	10%
主体的に学ぶ力	・介護福祉士として、自身の将来の職業像をイメージすることが出来き、その可能性を考えることができる	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

- ①個別援助計画の要素を理解する。
- ②事例演習から、個別の生活課題や潜在能力の見極めの方法のアセスメントを理解する。
- ③自立支援に沿った個別援助計画の立案・実施・評価・他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。
- ④総合視点（利用者の属性等の個人・環境因子など）様々な状況における事例を通して、介護過程の展開が出来るようになる。
- ⑤介護過程における評価の時期、基準を学習する。

- ・本授業では 定期試験 60%、レポート 40%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 記録類の整備	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録類の整理 （1時間）
2 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 事例研究論集作成の注意点 長期実習での情報共有（グループワーク）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）
3 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）
4 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業（オンライン対応可能）	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）
5 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）
6 回目	「長期実習での介護過程の振り返り」 介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる （1時間）

7回目	介護過程の振り返り 自分自身の介護計画の振り返りをまとめる	面接授業	復習：実習記録の振り返り 予習：実習記録をケースレポートにまとめる (1時間)
8回目	「介護過程とケアマネジメント」 介護過程とケアマネジメントの関係性	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：テキスト p 136～ p 146 (1時間)
9回目	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 事例1・2	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：p 148～p 153 (1時間)
10回目	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 事例3	面接授業	復習：これまでの授業内容 予習：p 153～p 156 (1時間)
11回目	「事例で考える利用者の生活と介護過程の展開」 事例1を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 個別支援計画作成	面接授業	予習：p 164～p 166 (1時間)
12回目	事例1を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク	面接授業	予習：p 164～p 166 (1時間)
13回目	事例1を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク（教科書読み合わせ）	面接授業	予習：p 164～p 171 (1時間)
14回目	事例2を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 個別援助計画作成	面接授業	予習：p 171～p 173 (1時間)
15回目	事例2を通して、生活する事の意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力に触れる。 グループワーク（教科書読み合わせ）	面接授業	予習：p 171～p 177 (1時間)
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規出版 テキストを補うために必要に応じて資料を配布する
履修条件	
履修上の注意	教科書・配布資料等を読み返し、今までに学んだことを復習して授業に望んでください。そうすることで、授業での振り返りやグループワークの理解が深まります。
オフィスアワー	授業時間後や空コマなど、教室や研究室で質問などを受け付けます。
備考・メッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解してください。

講義科目名称: 介護総合演習 I	授業コード: 52041
英文科目名称:	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	2単位	必修	講義・演習
担当教員				
太田茂美・尾村恵子				

授業概要	介護実習の事前・事後学習を通して、介護実習の目標・目的を理解する。実習マニュアルを学びの軸とし、他科目の進行状況や内容とも関連付けながら、介護福祉士としての生活支援の基礎力、実践力、応用力を身につける。また、実習のルール・提出物の締切を守る、クラスメイトと協力し実習予定を立てる、学外での礼節・約束を守る等の「学生としての基本的行動」を身につける。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・施設との連絡・調整・訪問等において社会のルールや状況に適した言動・行動ができ、クラスメイトと協力できる。	オリエンテーション参加の取組み	10%
確かな専門的知識や技能	・介護実習の事前・事後学習を通して介護福祉士に求められている専門性を理解し、多職種の中でどのような役割をもっているかを理解できる。・利用者の居住環境に応じた生活支援の方法を理解している。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	・利用者を中心とした多職種のコミュニケーションとはどのようなものかを理解している。	レポート	10%
課題解決能力	実習マニュアルを軸として、目標を設定し、自らの課題に取り組むことができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	介護福祉士としての職業倫理を理解し授業に取り組むことができる	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

- ・本授業では 定期試験 60%、オリエンテーション 参加の取組み 10%、レポート 20%、授業への参加・態度 10%で評価する
- ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	介護総合演習での学び ・介護総合演習 の位置づけ ・介護総合演習の目的 ・2 年間のスケジュール	オンライン 対応可	予習：テキスト P2～11 までを読み、内容を理解しておく（2時間）
2 回目	介護実習で何を学ぶか ・介護実習の意義と目的 ・介護実習の種類 ・実習前の学びと、実習後の学びの活かし方	オンライン 対応可	予習：テキスト P14～37 を読む 復習：テキスト P2～11 を読み、内容の理解を深める（2時間）
3 回目	介護実習準備、実習中・実習後の学び 介護実習前の学習の内容と方法 ・実習マニュアル配布 ・介護実習前の準備 ・実習日誌の書き方（演習） ・実習マナー心得	面接授業	予習：テキスト P40～52 を読む 復習：実習日誌の書き方の確認 （2時間）
4 回目	介護実習準備、実習中・実習後の学び 介護実習中の学習の内容と方法 ・実習日誌の書き方（演習）	オンライン 対応可	予習：テキスト P53～59 を読む 復習：実習日誌の書き方の確認 （2時間）
5 回目	介護実習準備、実習中・実習後の学び 介護実習後の学習の内容と方法 ・お礼状の書き方 ・実習報告会について ・自己評価・実習評価	面接授業	予習：テキスト P60～71 を読む 復習：お礼状の書き方の確認 （2時間）
6 回目	実習先の特徴、実習先での学び 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） ・サービス内容 ・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種	オンライン 対応可	予習：テキスト P109～120 を読み、内容を理解する （2時間）

	<ul style="list-style-type: none"> ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 		
7回目	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)実習 振り返り	面接授業	予習：自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、次の実習につなげるべき課題について考える(2時間)
8回目	実習先の特徴、実習先での学び グループホーム <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 	オンライン 対応可	予習：テキストP144～155を読み、内容を理解する(2時間)
9回目	実習先の特徴、実習先での学び グループホーム <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 	オンライン 対応可	復習：テキストP144～155を読み、グループホームの特徴、実習で何を学ぶべきかを理解しておく(2時間)
10回目	実習先の特徴、実習先での学び 訪問介護 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 	オンライン 対応可	予習：テキストP74～85を読み、内容を理解する(2時間)
11回目	実習先の特徴、実習先での学び 訪問介護 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 	オンライン 対応可	復習：テキストP74～85を読み、特徴、実習で何を学ぶべきかを理解しておく(2時間)

	<ul style="list-style-type: none"> ・1日のスケジュールとケアの内容 ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 		
12回目	<p>実習先の特徴、実習先での学び 障害者支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 <p>・1日のスケジュールとケアの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 	オンライン 対応可	予習：テキスト P 180～P 191 を読み、内容を理解する (2時間)
13回目	<p>実習先の特徴、実習先での学び 障害者支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容 ・対象者 <p>・1日のスケジュールとケアの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種 ・チームケア ・地域連携 ・実習での学び 	オンライン 対応可	復習：テキスト P 180～P 191 を読み、特徴、実習で何を学ぶべきかを理解しておく (2時間)
14回目	<p>実習先の特徴・実習施設で何を学ぶべきか まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人、3人1グループで、今まで学習した施設について調べる（施設がグループで重ならない様に調べる施設を決定する） 	面接授業	復習：テキスト・参考文献等を読んで、発表の準備を行う（2時間）
15回目	<p>発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設について調べたものをそれぞれのグループで発表する。 	面接授業	予習：テキスト・参考文献等を読んで、発表の準備を行う（2時間）
16回目	<p>「事後学習」 実習の振り替わりと自己評価 振り返り用紙を発表 事例研究発表会スケジュール確認 事例研究発表会での役割確認</p>	面接授業（オンライン対応可能）	予習：自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、次の実習につなげるべき課題について考える（2時間）
17回目	<p>実習の振り替わりと自己評価 振り返り用紙を発表</p>	面接授業（オンライン対応可能）	予習：自身の実習日誌を確認し、学んだことや反省点、

	事例研究発表会スケジュール確認 事例研究発表会での役割確定	応可能)	次の実習につなげるべき課題について考える(2時間)
18回目	「実習先の特徴と学ぶポイント」 介護老人保健施設(老健) 介護老人保健施設について 実習先の調査(老健希望調査)	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:p97~p108、p121~p131(1時間)
19回目	リハビリテーション病院 リハビリ実習について(宿泊等) 実習先の調査(リハビリ希望調査)	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:配布資料 (1時間)
20回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講 会場準備	面接授業	予習・復習:2年生の本論から長期実習での学びを理解する(1時間)
21回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講	面接授業	予習・復習:2年生の本論から長期実習での学びを理解する(1時間)
22回目	「ケースレポート発表会」 ケースレポート聴講 ケースレポート聴講の感想を提出する 会場撤去	面接授業	予習・復習:2年生の本論から長期実習での学びを理解する(1時間)
23回目	介護老人福祉施設(特養) 実習先の調査(特養希望調査)	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:p109~p120 (1時間)
24回目	実習先別グループワーク 老健オリエン話し合い役割分担,目標決め, 資料作成 実習先の調査	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:p97~p108、p121~p131(1時間)
25回目	実習先別グループワーク リハビリオリエン話し合い	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:配布資料(1時間)
26回目	実習先別グループワーク 特養オリエン話し合い	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:テキスト、対象頁 (1時間)
27回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:p109~p120 (1時間)
28回目	実習前指導 実習注意点、記録用紙記入等	面接授業	復習:実習マニュアル 予習:テキスト、対象頁 (1時間)
29回	帰校日	面接授業(オ	復習:マニュアル実習内容

	特養振り返り用紙配布、記入 老健・リハビリ・特養 自己評価	オンライン対応可能)	の確認 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認 (1時間)
30回	帰校日 老健・リハビリ・特養 振り返り用紙をもとに発表・グループワーク	面接授業(オンライン対応可能)	復習：実習マニュアルの確認(1時間) 予習：実習の振り返り、自己評価、記録物の確認

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 テキスト：長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル
履修条件	
履修上の注意	授業には実習マニュアル類を持参してください。 実習への取組みには、学生同士の協力が不可欠です。授業を通して、学生同士のコミュニケーション能力を身につけてください。
オフィスアワー	授業・実習前後にて対応します。
備考・メッセージ	授業の到達目標を理解してください。

講義科目名称：介護総合演習Ⅱ	授業コード：11041
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2年	2単位	必修	授業・演習
担当教員				
太田 茂美				

授業概要	<p>実習体験を通しての振り返りを、次の実習・実践につなげられるように、目的・目標を常に明確化する。また、他科目の進行状況や内容に、介護実習を関連付けることができるようになる。長期実習後、事例研究にて実践の結果を発表し、介護実践に必要な知識や技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<p>介護実習の事前・事後の学びにおいて、自ら考え、行動し、他者の協力を得ながら実習に取り組むことができる。</p>	事例研究発表	5%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援技術の専門知識と技術を効果的に活用し、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ、その人の立場に立ち、3領域の知識を活かした介護を効果的に展開し、その根拠を示しながら発表することができる。 自らの介護観について述べるることができる。 	事例研究発表 定期試験	10% 60%
コミュニケーション能力	<p>実習記録類の記述方法を理解し、教員の指導をもとに問題点を改善し、介護実習・事例研究作成に、効果的に活用することができる。</p>	事例研究発表	5%
課題解決能力	<p>介護実習の振り返りをおこない、実習に関わる自らの課題を自覚し、解決方法を考えることができる。</p>	レポート	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 実習の目標や課題を自分で考えることができる。 専門職として自己に求められる課題を把握できる。 	授業への参加・態度	10%

合計	100%
補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では 定期試験 60%、事例研究発表 20%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%で評価する ・対面授業を主で行い、オンラインライブ形式で授業を行う際は ZOOM を使用する 	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「介護実習Ⅱの意義と目的」 介護実習Ⅰの振り返り 振り返り記入 発表 介護実習Ⅱについて 実習先の調査（長期実習希望調査）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日誌類を読んでおくこと 予習：介護老人保健施設・介護老人福祉施設の振り返りレポート、長期実習先の検討をしておくこと （1時間）
2 回目	「長期実習事前学習」 グループワーク 実習先の調査（長期実習希望調査）	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日誌類を読んでおく 予習：長期実習先の実習Mを読んでおくこと （1時間）
3 回目	長期実習について オリエン話し合い （随時訪問、5/17～5/28日） 個人票目標・実習目標の検討	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの実習の日誌類を読んでおく 予習：長期実習マニュアルを読んでおくこと （1時間）
4 回目	長期実習について 個人票目標・実習目標の確定 「長期実習」記録用紙配布	面接授業（オンライン対応可能）	復習：長期実習マニュアル 予習：実習マニュアルの再確認、前年度の事例研究論集を読んでおくこと （1時間）
5 回目	長期実習について 事例研究の書き方について 参考：過去事例研究論集 図書館利用について	面接授業	復習：前年度の事例研究抄録を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認（1時間）

6回目	長期実習について 実習前指導 長期実習前、日誌類・その他、再確認と注意事項等	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認 (1時間)
7回目	長期実習について 実習前指導 長期実習前、日誌類・その他、再確認と注意事項等	面接授業	復習：前年度の事例研究論集を読んでおくこと 予習：実習マニュアルの再確認 (1時間)
8回目	「実習中の振り返り(帰校日)」 実習の経過報告 アセスメント(1)(2)の進捗状況確認、個別援助計画の進捗状況確認	面接授業	復習：生活支援技術・こころとからだ・認知症の理解等の教科書・ノート類 予習：参考文献等を読んでおく事 (2時間)
9回目	「実習中の振り返り(帰校日)」 実習の経過報告 アセスメント(1)(2)の進捗状況確認、個別援助計画の進捗状況確認	面接授業	復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：参考文献等を読んでおく事 (2時間)
10回目	「実習中の振り返り(帰校日)」 実習の経過報告 個別援助計画の実施状況確認、評価の進捗状況確認	面接授業	復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート、参考文献等を読んでおく事 (2時間)
11回目	「実習中の振り返り(帰校日)」 実習の経過報告 個別援助計画の実施状況確認、評価の進捗状況確認	面接授業	復習：介護過程(個別援助計画)教科書・ノート 予習：生活支援技術・こころとからだ・認知症の理解等の教科書・ノート類、参考文献等を読んでおく事 (2時間)
12回目	「事後学習」 介護実習Ⅱ(長期実習)振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 自己評価	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の記録類を読んでおくこと(2時間)

13 回目	介護実習Ⅱ（長期実習）振り返り 介護過程展開の振り返り 長期実習振り返り記入 発表	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の振り返りのまとめをしておくこと （1時間）
14 回目	介護実習Ⅱ（長期実習）振り返り 介護過程展開の振り返り グループワーク	面接授業	復習：長期実習にあたり自分自身の行動を振り返る 予習：自身の振り返りのまとめをしておくこと （1時間）
15 回目	「事例研究作成」 事例研究の書き方の再確認 参考：過去事例報告集 事例研究の提出手順、印刷、評価方法、発表会運営、事例研究の発表方法等	面接授業	復習：自身の記録類を讀んでおくこと 予習：前年度の事例研究論集を讀んでおくこと （1時間）
16 回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成（1時間）
17 回目	事例研究（事例報告集）作成 実習巡回教員指導の元、作成を進める	面接授業	復習：事例研究（事例報告集）作成 予習：事例研究（事例報告書）作成（1時間）
18 回目	事例研究（事例報告集）製本	面接授業	復習・予習：発表原稿の印刷をしておくこと （1時間）
19 回目	事例研究（事例報告集）製本	面接授業	復習：発表原稿作成 予習：発表原稿作成 （1時間）
20 回目	事例研究発表会 役割分担再確認 PPT作成	面接授業	復習・予習：作成した事例研究論集を讀んでおくこと （1時間）
21 回目	事例研究発表会 PPT作成	面接授業	復習・予習：作成した事例研究論集を讀んでおくこと （1時間）
22 回目	「事例研究発表会事前指導」 カルチャーホールにて発表練習	面接授業	復習：発表原稿作成 予習：発表練習 （1時間）

23 回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 (1 時間)
24 回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 (1 時間)
25 回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 (1 時間)
26 回目	「事例研究発表会」 実習指導者、学生、教員同席により「事例研究（事例報告）」報告会	面接授業	予習：事例報告集 (1 時間)
27 回目	「事例研究発表会振り返り」 振り返りシート記入・グループワーク	面接授業（オンライン対応可能）	復習：事例報告集 予習：事例報告集 (1 時間)
28 回目	「介護総合演習まとめ」 倫理・尊厳とは何か	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献等 (1 時間)
29 回	実習を通して「介護福祉士観」「職業観」について考える	面接授業（オンライン対応可能）	復習：これまでの授業等 予習：教科書・文献 (1 時間)
30 回	「介護観」とは 介護福祉士観の発表	面接授業（オンライン対応可能）	予習：「介護観」について考えておくこと (1 時間)

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 テキスト：長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル
履修条件	
履修上の注意	授業には実習マニュアル類を持参してください。 評価について：定期試験、実習前後の実習態度や提出物の内容、実習先の担当職員の評価、事例研究発表、実習報告書、事例検討書の内容等により総合的に評価する。
オフィスアワー	授業終了後、放課後など。随時質問に来てください。

備考・メッセージ	<p>講義概要、到達目標、評価方法、を確認の上、授業に臨んでください。</p> <p>特に長期実習前は、実習マニュアルを熟読してください。</p> <p>事例研究作成には参考文献が不可欠です。図書館の本等沢山の文献を参考にしてください。</p>
----------	--

講義科目名称：介護実習 I	授業コード：90141
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	1年	5単位	必修	実習
担当教員				
太田 茂美、尾村 恵子、光武きよみ				

授業概要	<p>介護現場での実習を通して、利用者ひとりひとりの生活リズムや個性を理解するという視点から、介護とは何かを学ぶ。利用者、家族との関わりを通じたコミュニケーション、他職種連携、これまで学んだ生活支援技術を実践する基礎的能力を習得する。また、利用者の暮らしや住まいといった環境面を理解しながら、その人らしい生活を維持するための個別ケアの重要性について理解する。①介護実習の意義目的を理解する ②人権尊重や自立支援を基本に生活ニーズに関する情報を収集し、生活支援に活かすことができる ③実習を通して、実習施設の基本理念、目標を基に利用者の生活・心身の状況に応じた生活支援技術を学ぶ ④介護に関する過程、他職種連携、地域連携を学び、介護の探究する姿勢を身につける ⑤介護職の職業倫理や姿勢・態度を学び、実践力を身につける</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・学校・実習先のルールを守り、状況に適した言動ができる。	実習前・中・後	10%
確かな専門的知識や技能	・生活支援技術の専門知識と技能を概ね習得し、実践をすることができる。 ・3領域の知識を概ね習得し、その知識を活かした介護を実践することができる。	実習中	70%
コミュニケーション能力	丁寧な字で実習日誌類（実習目標）を書き、教員の指導を受けながらその内容（文字の丁寧さ、目標の内容）を改善することができる。	実習日誌類	5%
課題解決能力	ニーズ・生活課題について情報を収集することができる。指導を受けたことを実践し、その結果を報告することができる。	実習中・後	5%
主体的に学ぶ力	介護を実践する上での課題に取り組むことができる	実習前後	10%

合計	100%
補足事項	
<p>・本授業では 施設からの評価 70%、実習前・中・後の取組み 25%、実習日誌類 5%で評価する 実習目標設定、実習中における教員からの指導、実習後の振り返りやお礼状投函等、幅広い項目が 実習評価となります。一つひとつの項目を、指導を受けながら丁寧に取組むようにしてください。</p>	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
	介護老人福祉施設 3 日間(24 時間) ≪実習目的≫ 高齢者・障害者を知る	実習	復習：1 日ごとに実習日誌 を記録し、反省や翌日の実 習の課題を見つける (1 日 2 時間、計 6 時間)
	グループホーム 5 日間(40 時間) ≪実習目的≫ 認知症対 応型共同生活介護の特徴や役 割を知り、利 用者の自立支援のための 日常生活援助の 方法を理解する	実習	復習：1 日ごとに実習日誌 を記録し、反省や翌日の実 習の課題を見つける (1 日 2 時間、計 10 時間)
	障害者支援施設実習 8 日間(64 時間) ≪実習目的≫ 介護老人保健施設の特徴と 役割を知 る。利用者の心身状況に応じた専 門職 としての視点、及びチームとしての連 携方法を踏まえて、生活支援技術を的 確に 選択し実践できる。I C F に基づいたアセ スメントができる。	実習	復習：1 日ごとに実習日誌 を記録し、反省や翌日の実 習の課題を見つける (1 日 2 時間、計 16 時間)
	訪問介護実習 2 日間 (16 時間) ≪実習目的≫ 訪問介護の特性や役割を知 り、利用者 の特性に応じた生活環境に対す る生活 支援技術の方法を理解する	実習	復習：1 日ごとに実習日誌 を記録し、反省や翌日の実 習の課題を見つける (1 日 1 時間、計 2 時間)
	介護老人保健施設 8 日間(64 時間) ≪実習目的≫ 介護老人保健施設の特徴と 役割を知 る。利用者の心身状況に応じた専 門職 としての視点、及びチームとしての連 携方法を踏まえて、生活支援技術を的 確に 選択し実践できる。I C F に基づいたアセ	実習	復習・予習：実習日誌やア セスメントシートなどを記 録し、翌日の実習の課題を 見つける (1 日 3 時間、計 24 時間)

	スメントができる。		
	リハビリテーション病院 4 日間 (32 時間) 《実習目的》 リハビリテーション病院の 特徴や役割 を知り、他職種と連携を図りな がら患 者様の自立支援に向けた ICF の視 点で の日常生活援助方法を理解する。	実習	復習：1 日ごとに実習日誌 を記録し、反省や翌日の実 習の課題を見つける (1 日 2 時間、計 8 時間)

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 テキスト：長崎短期大学介護福祉士実習マニュアル
履修条件	
履修上の注意	介護実習の評価は、実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認 する。介護実習 I においては、実習期間中はテキストを自宅に持ち帰り、毎 日の日誌記入に活かしてください。日誌を書く上で重要な「根拠」は、テキ ストを参考に記述すると、より学びが深まります。
オフィスアワー	実習の前後で対応します。また、実習期間中は巡回担当教員が、施設巡回に 行きます。その際に、不明点等を質問してください。実習の最終日には、実 習全体の「振り返り」をおこないます。実習期間中に学んだことを、紙に簡 潔にまとめて臨むようにしてください。
備考・メッセージ	実習には不安や悩み等あると思います。そのような場合は、巡回担当教員に 相談することで、実習に取り組みやすくなるはずです。一人で悩まず、なん でも質問してください。

講義科目名称：介護実習Ⅱ	授業コード：90143
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	2年	5	必修	実習
担当教員				
太田 茂美、尾村 恵子、光武きよみ				

授業概要	<p>介護実習Ⅰで得た知識・技術をもとに利用者の状況に応じた生活支援技術について実践を行う。</p> <p>介護現場での実習を通して、利用者の生活全体を把握した上で利用者一人を担当し、アセスメントからモニタリングまで介護過程の実践を通して、個別介護の重要性を理解する。</p> <p>①観察、コミュニケーション、記録類を通じて得た情報から優先度を考え、生活課題を明確にできる</p> <p>②利用者、家族、他職種とのチームアプローチの必要性を理解し、介護計画の立案を行うことができる</p> <p>③介護過程を展開する中で、専門的・計画的な介護サービスを提供する能力を身につける</p> <p>④利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる</p> <p>⑤介護目標が達成できたか、援助内容が適切であったか、計画を修正する必要があるか評価する力を身につける</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	個別援助計画の短期目標達成にむけ、成功イメージを意識しながら、計画の立案・実施・修正を柔軟に行うことができる。	個別援助計画	5%
確かな専門的知識や技能	<p>・生活支援技術の専門知識と技能を、効果的に活用することができる。また、3領域の知識を活かした介護を効果的に実践しその根拠を示すことができる。</p> <p>・その人の思いを推測し、引き出しながら、介護が必要な人の生活課題に優先順位をつけ把握し、その改善方法の立案と実践をすることができる。</p>	実習中	80%

コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場に立ち、その思いを共感することができる。 ・自らの感情表出傾向を自覚できる ・多職種の協力を得ながら、利用者本位の支援を考え、実践することが出来る。 	実習中・後	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えたこと、実践したことを報告し、疑問を相談することで、自身の課題を解決することができる。 	実習中・後	5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の実践について評価することができ、新たな課題に取り組むことができる。 	実習中	5%
合計			100%
補足事項			
<p>・本授業では 施設からの評価 80%、実習前・中・後の取組み 15%、個別援助計画 5%で評価する 実習目標設定、実習中における教員からの指導、実習後の振り返りやお礼状投函等、幅広い項目が 実習評価となります。一つひとつの項目を、指導を受けながら丁寧に取組むようにしてください。 また、長期実習においては、これまで学修してきた知識を活用しながらアセスメント作成し、個別 援助計画の実践をすることが実習の柱となります。</p>			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
	介護老人福祉施設	7日間（56時間） 《実習目的》 利用者の生活ニーズを捉え、生活支援のあり方を考え実践する。	復習・予習：実習日誌やアセスメントシートなどを記録し、翌日の実習の課題を見つける （1日3時間、計24時間）
	長期実習（施設実習）	23日間（184時間） 《実習目的》 利用者を総合的に捉え、個別性を踏まえた介護過程を展開することができる。	復習：実習日誌やアセスメントシートなどを記録し、翌日の実習の課題を見つける 予習：個別援助計画達成にむけての計画を立てる （1日3時間、計24時間）

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	<p>テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会「新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規出版</p> <p>テキスト：長崎短期大学介護福祉実習マニュアル 「社会」「こころとからだ」「介護」の各領域テキスト 各授業にて配布されたプリント類</p>
履修条件	
履修上の注意	<p>介護実習の評価は、実習施設の実習指導者が評価し、その後、教員間で確認する。介護実習Ⅱにおいては、実習期間中はテキストを自宅に持ち帰り、個別援助計画の作成に活かしてください。計画を書く上で重要な「根拠」は、テキストを参考に記述するとより学びが深まります。</p>
オフィスアワー	<p>実習の前後で対応します。また、実習期間中は巡回担当教員が、施設巡回に行きます。その際に、不明点等を質問してください。長期実習においては、帰校日を2度設定しています。その際に、アセスメント（1）（2）、個別援助計画について、巡回担当教員に質問してください。</p>
備考・メッセージ	<p>実習前後の取り組みを大切にしてください。特に、報告・連絡・相談、を大切にしてください。長期実習は23日間、約5週に渡る長丁場です。各自、実習前から、心身共に体調管理に努めることが重要なポイントとなります。長期実習には様々な、不安や悩み等あると思います。そのような場合は、巡回担当教員に相談することで、実習に取り組みやすくなるはずです。一人で悩まず、なんでも質問してください。</p>

講義科目名称：こころとからだ A	授業コード：31131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。</p> <p>本授業では、①健康とは何かを理解する。②体と密接なつながりをもつところのしくみを理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> 健康とは何かを述べるができる。 からだところのしくみについて基礎的な知識を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で協力し、介護の援助場面でのコミュニケーションのとり方について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループディスカッション 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 援助する場合の留意点を踏まえ、課題解決の方法について考えを述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート グループプレゼンテーション 	5% 10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加・態度 	10%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> 本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート%5、授業への参加・態度10%、グループプレゼンテーション10%の割合で評価する。 授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 	

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	「オリエンテーション」 授業の概要、進め方について説明する。 『「健康」とは何か』 健康の定義について説明する。	オンライン等で行う場合がある	予習：教科書 P 2～4 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：健康とはどのようなことかを自らの生活や文献から考察する (2.5 時間)
2 回目	『「健康」とは何か』 「健康づくり」について理解する。 健康観について説明する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 4～8 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：健康観の多様性について考察する (2.5 時間)
3 回目	『「健康」とは何か』 人はなぜ病気になるのかについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 8～11 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：人々の健康観に寄与する要因について考察する (2.5 時間)
4 回目	「こころのしくみを理解する」 「人間の欲求とは何か」 マズローの基本的欲求について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 14～15 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：基本的欲求の具体的例を挙げる (2.5 時間)
5 回目	「人間の欲求とは何か」 マズローの社会的欲求、自己実現について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 16～18 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：生きがいについての考えをまとめる (2.5 時間)
6 回目	「自己実現と尊厳」 自己概念に影響する要因について理解する。 自立への意欲と自己概念について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 19～21 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：ライフステージごとの自己概念に与える要因をまとめる。(2.5 時間)
7 回目	「自己実現と尊厳」 自己実現と尊厳、生きがいについてグループで学びあう。 国際的な取組みについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 21～23 を読みまとめる (1.5 時間) 復習：グループディスカッションでの学びをまとめる。国際的な取組みについて調べ、考察する (2.5 時間)

8回目	「こころのしくみの基礎」 作文を用いて、「こころ」とは何かについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 2 4を読む(0.5時間) 復習：こころについて現時点での考えをまとめる(3時間)。
9回目	「こころのしくみの基礎」 脳のしくみについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 2 5～2 7を読む(0.5時間) 復習：プリントの脳皮質の区分と機能局在、脳辺縁系の位置を図示する(3時間)。
10回目	「こころのしくみの基礎」 脳のしくみと認知のしくみの関連を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 2 8を読む(0.5時間) 復習：前回プリントに認知のしくみを追加し整理する(3時間)。
11回目	「こころのしくみの基礎」 学習・記憶・思考のしくみについて理解する。 教科書にある言葉の意味を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 2 8～3 2を読む(0.5時間) 復習：授業で示された言葉の意味を整理する(3時間)。
12回目	「こころのしくみの基礎」 感情・情動のしくみについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 3 2～3 3を読む(0.5時間) 復習：授業で示された言葉の意味を整理する(2.5時間)。
13回目	「こころのしくみの基礎」 意欲・動機づけのしくみについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 3 3～3 4を読む(0.5時間) 復習：授業で示された言葉の意味を整理する(2.5時間)。
14回目	「こころのしくみの基礎」 適応のしくみについて理解する。	面接授業	予習：p 3 5～3 7を読む(0.5時間) 復習：プレゼンテーションの準備(8時間)
15回目	「こころのしくみの基礎」 適応機構につてプレゼンテーションを行う。 適応のしくみについて理解する。 本教科のまとめ	面接授業	予習：p 3 5～3 7を読む(0.5時間) 復習：今まで整理したものを見直す(3時間)。

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	

教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	9回10回は、色分けできるように色鉛筆、マーカー等を持参する。 15回目のプレゼンテーションは、PP使用可。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：こころとからだ B	授業コード：51131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。</p> <p>本授業では、①からだのしくみを理解する。②生命を維持する仕組みを理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・からだのしくみについて基礎的な知識を理解する。 ・自律神経、内分泌、免疫と恒常性のしくみを理解する。 ・介護福祉職に必要な薬の知識について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト 	<p>60%</p> <p>10%</p>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、からだのしくみについて理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション 	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を整理し、述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート 	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 	10%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、ノート10%、グループディスカッション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 	

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」授業概要と担当について説明する。 「からだのしくみ」 「からだの部位の役割」 細胞・遺伝、身体各部の名称について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：P 4 0～4 2、5 0～5 1 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：細胞の働き、遺伝の仕組みについて、図示し、理解を深める。身体各部の名称は暗記する。(2.5 時間)
2 回目	「からだの部位の役割」 脳・神経の構造を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 4 3～4 6 を読み、まとめる。(1.5 時間) 復習：中枢神経の構造と働きについて、整理し、理解を深める。(2.5 時間)
3 回目	「からだの部位の名称」 脳・神経系のはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 4 3～4 6 を読む。(1.5 時間) 復習：末梢神経の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5 時間)
4 回目	「からだの部位の役割」 感覚器の構造とはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 4 6～4 9 を読み、まとめる。(1.5 時間) 復習：感覚器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5 時間)
5 回目	「からだの部位の役割」 呼吸器の構造とはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 5 2～5 3 を読み、まとめる。(1.5 時間) 復習：呼吸器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5 時間)
6 回目	「からだの部位の役割」 循環器の構造を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 5 3～5 5 を読み、まとめる(1.5 時間) 復習：循環器の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5 時間)
7 回目	「からだの部位の役割」 循環器のはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 5 3～5 5 を読み、まとめる(1.5 時間) 復習：循環器 (主にリンパ系) の構造と働きについて整理し、理解を深める。(2.5 時間)
8 回目	「からだの部位の役割」 消化器の構造とはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 5 5～5 8 を読む(1 時間) 復習：消化器の構造とはたらきをノートに図示し整理する(3 時間)。

9回目	「からだの部位の役割」 泌尿器の構造とはたらきを理解する。	オンライン 等で行 う場合 がある	予習：p 58～60を読む(1時間) 復習：泌尿器の構造とはたらきノート に図示し整理する(3時間)。
10回目	「からだの部位の役割」 骨・関節の構造とはたらきを理解す る。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 60～64を読む(1時間) 復習：骨・関節の構造とはたらきノ ートに図示し整理する(3時間)。
11回目	「からだの部位の役割」 筋肉の構造とはたらきを理解する。 神経系のはたらきを理解する。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 64～69を読む(1時間) 復習：筋肉の構造と神経系のはたらき ノートに図示し整理する(3時間)。
12回目	「からだの部位の役割」 生殖器・内分泌の構造とはたらきを理 解する。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 69～75を読む(1時間) 復習：生殖器・内分泌の構造とはたら きノートに図示し整理する(3時間)。
13回目	「からだの部位の役割」 血液・体液・リンパの構造とはたらき を理解する。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 75～77を読む(1時間) 復習：血液・体液・リンパの構造とは たらきノートに図示し整理する(3時 間)。
14回目	「関連する役割、および薬の知識」 自律神経、内分泌、免疫と恒常性のし くみを理解する。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 77～79を読む(1時間) 復習：自律神経、内分泌、免疫と恒常 性のしくみノートに整理する(3時 間)。
15回目	「関連する役割、および薬の知識」 介護福祉職に必要な薬の知識につい て説明する。	オンライ ン等で行 う場合 がある	予習：p 79～82を読む(1時間) 復習：介護福祉職に必要な薬の知識ノ ートに整理する(3時間)。

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出 版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	各臓器の構造とはたらきについて新しく知りえたことを、授業終了時には毎 回グループで知識の共有を図るので、発表できるように準備すること。

	授業では、図示をするので毎回、色分けできるように色鉛筆、マーカー等を持参する。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：こころとからだC	授業コード：31231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面（移動・身じたく・食事・入浴・清潔）に応じた、こころとからだのしくみを理解する。 機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・からだところろの相互関係を理解し、意欲や行動にどのような影響を及ぼすのかについて理解できる。 ・具体的な生活行動への影響及び支援の根拠となる知識と観察のポイントや対応内容を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、からだところろのしくみについて理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・生活行動への影響を理解し、根拠に基づく介助の方法について考えを述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション 	10% 5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 	10%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート10%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 	

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「移動に関連したところとからだのしくみ」 移動のしくみを理解する（基本姿勢・ボディメカニクス）。	オンライン等で行う場合がある。	予習:P84～91を読む(1時間) 復習:p99演習3-1をする(3時間)。
2 回目	「移動に関連したところとからだのしくみ」 実習室で実際にからだを動かし、移動に関連したところとからだのしくみを理解する。	面接授業	予習:p84～97を読む(1時間) 復習:臥位から立位になるまでの身体の動きを文章又は図でまとめる(4時間)。
3 回目	「移動に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が移動に及ぼす影響について理解する。 要因と不自由になることでの生じる状態を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習:p100～105を読む(1時間) 復習:移動が不自由になる要因と非自由になることで生じる状態の主なものをまとめる(3時間)。
4 回目	「移動に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。 p110演習3-2行い、グループディスカッションとプレゼンテーションをすることで観察ポイントと支援の判断を理解する。	面接授業	予習:p106～110を読む(1時間) 復習:グループディスカッションとプレゼンテーションから学んだ内容をまとめる(3時間)。
5 回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 ・身じたくに関連したところのしくみを理解する。 ・生活の中で行われている身じたくに関する、ところとからだの基本項目(顔面・眼・耳・鼻・爪)を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習:p60～69p、112～120を読む(2時間) 復習:ところとからだのしくみBで作成したノートにところのしくみとの関連を追加する(3時間)。
6 回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 ・生活の中で行われている身じたくに関する、ところとからだの基本項目(毛髪・口腔・歯・舌・口臭・洗顔)を理解する。P130 演習	面接授業	予習:p120～129を読む(1時間) 復習:p130演習4-1をする。4-2はグループディスカッションでの気づきを追加す

	4-2 でグループディスカッションを行い支援の根拠を理解する。		る (3 時間)。
7 回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響を理解する (老化・妨げとなる要因)。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 3 1 ~ 1 3 6 を読む (1 時間) 復習: 老化に伴う機能低下と、身支度を整えるのを妨げる要因をまとめる (3 時間)。
8 回目	「身じたくに関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。 支援のための観察ポイントと他職種連携のための判断を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 3 7 ~ 1 4 5 を読む (1 時間) 復習: 観察と医療職との連携ポイントをまとめる (3 時間)。
9 回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 食事のしくみについて理解する	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 4 8 ~ 1 5 4 を読む (1 時間) 復習: p 1 5 5 演習 5 - 1 をする (1 時間)。
10 回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が食事に及ぼす影響について理解する	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 5 6 ~ 1 6 2 を読む (1 時間) 復習: 加齢・主な障害による機能低下をまとめる (3 時間)。
11 回目	「食事に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 6 3 ~ 1 6 9 を読む (1 時間) 復習: 観察と誤嚥が疑われる病歴や状態、医療職との連携ポイントをまとめる (3 時間)。
12 回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 入浴・清潔保持のしくみ (入浴の効果・清潔保持の必要性・心身機能の影響) について理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 7 2 ~ 1 8 2 を読む (1 時間) 復習: p 183 演習 6 - 1 と 6 - 2 する (3 時間)。
13 回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 8 4 ~ 1 9 3 を読む (1 時間) 復習: p 1 9 4 演習 6 - 3 をする (3 時間)。
14 回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習: p 1 9 5 ~ 2 0 4 を読む (1 時間) 復習: 入浴が及ぼす影響と対応

		ある。	をまとめる（3時間）。
15回目	「入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 195～204を読む（1時間） 復習： p 206 演習 6-4 をする（3時間）。
16回	定期テスト		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書： 最新介護福祉士養成講座 11「ところとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	前期で学習したところとからだのしくみ B で配布したプリントなど再利用するため、授業では持参すること。 グループによるプレゼンテーションは、PP 使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：こころとからだ D	授業コード：21231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面（排泄・睡眠）に応じた、こころとからだのしくみを理解する。</p> <p>機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。</p> <p>人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響と具体的ケアの方法を理解する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄、休息・睡眠に関する基礎的な知識、人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて理解する。 ・介護福祉職としてのケアの方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト 	<p>60%</p> <p>10%</p>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、排泄、休息・睡眠について、さらに人生の最終段階のケアについて理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄障害、睡眠障害を理解し、ケアの方法について考えを述べることができる。 ・人生の最終段階を迎えた人へのケアについて考えを述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション 	<p>5%</p> <p>5%</p>
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・尊厳を支える介護とはどのような介護か、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 ・レポート 	<p>10%</p> <p>5%</p>

合計	100%
補足事項	
<p>・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート10%、プレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。</p> <p>・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。</p> <p>・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。</p>	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「排泄に関連したところとからだのしくみ」 排泄のしくみを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 208～216を読む (1時間) 復習：P 219 演習 7-1 をする。 (2時間)
2回目	「排泄に関連したところとからだのしくみ」 人工膀胱・人工肛門のしくみを理解する。 身体の機能低下が排泄に及ぼす影響（精神、判断能力低下）を理解する。	面接授業	予習：p 216～224を読む (1時間) 復習：P 220 演習 7-2 をディスカッションした内容を整理する。(3時間)
3回目	「排泄に関連したところとからだのしくみ」 身体の機能低下が排泄に及ぼす影響（身体機能の低下）を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 224～230を読む (1時間) 復習：P 231 演習 7-3、7-4 をする (3時間)。
4回目	「排泄に関連したところとからだのしくみ」 変化の気づきと対応について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 232～238を読む (1時間) 復習：自己の排泄日誌を1週間つける (3時間)。
5回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 なぜ人は睡眠をとるのかを理解する。 睡眠のしくみを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 240～244を読む (1時間) 復習：p 248 演習 8-1 をする (2時間)。
6回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ」 睡眠の質を高める環境や生活習慣を理解する。	面接授業	予習：p 245～247を読む (1時間) 復習：p 249 演習 8-2 を、ディスカッションした内容を

	睡眠障害を理解する。 p 249 演習 8-2 を、ディスカッションし 快適に眠る工夫について意見交換する。		整理する (3 時間)。
7 回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのし くみ」 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響に ついて学ぶ。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 250~256 を読む (1 時間) 復習: p 257 演習 8-3 をす る (2 時間)。
8 回目	「休息・睡眠に関連したところとからだのし くみ」 睡眠の観察のポイントと変化の対応につい て理解する。 睡眠での医療職との連携のポイントや緊急 対応が必要な状況を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 258~261 を読む (1 時間) 復習: 自己の睡眠日誌を 1 週 間つける (2 時間)。 アセスメントのポイントと睡 眠薬についてまとめる (4 時 間)。
9 回目	「人生の最終段階に関連したところとから だのしくみ」 「人生の最終段階に関する「死」のとらえ方」 尊厳死 (リビングウィル、インフォームドコ ンセント) や加齢に伴う自然死について理解 する。 看取りにかかわる人の価値観を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 264~269 を読む (1 時間) 復習: 死のとらえ方 3 つ、尊厳 死、自然死を説明する (4 時 間)。
10 回目	「人生の最終段階に関連したところとから だのしくみ」 終末期とは何かを、終末期に退院する例から ターミナルケアのポイントを理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 269~274 を読む (1 時間) 復習: ターミナルケアのポイン ト (本人・家族) をまとめる (4 時間)。
11 回目	「人生の最終段階に関連したところとから だのしくみ」 死に対する考え方、キューブラー・ロスの終 末期にある人の死の受容プロセス及び家族 への支援を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 275~280 を読む (1.5 時間) 復習: p 281 演習 9-1 をす る (1.5 時間)
12 回目	「人生の最終段階に関連したところとから だのしくみ」 終末期から臨終期における身体機能の変化 を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習: p 282~287 を読む (1 時間) 復習: 臨終期の対応の準備をま とめる (3 時間)。
13 回目	「人生の最終段階に関連したところとから	オンライ	予習: p 287~290 を読む

	だのしくみ」 死後のからだの変化や死後の連絡について学ぶ	ン等で行 う場合が ある	(1時間) 復習：p 290 演習9-2をす る(3時間)。
14回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ」 終末期における医療職との望ましい連携についてグループディスカッションしプレゼンテーションを行う。	面接授業	予習：p 291～299を読む (1時間) 復習：介護福祉士の終末期ケアの役割をまとめる(3時間)
15回目	「人生の最終段階に関連したところとからだのしくみ」 死後のケアの方法を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習：配布プリントを読む(1時間)。 復習：死後のケアを行う時に心がけることをまとめる(5時間)。
16回	定期テスト		

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座11「ところとからだのしくみ」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：発達と老化の理解 I	授業コード：33131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ、座間味愛理				

授業概要	人間の成長・発達の過程における身体的・心理的・社会的変化、老化が生活に及ぼす影響についての基礎的知識を理解する。また、ライフサイクルの特徴に応じた生活支援に必要な基礎的知識を理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	試行錯誤しながら、自ら考え行動する。	・事業への参加・態度	5%
確かな専門的知識 や技能	・人間の成長・発達の基礎的な考え方をふまえ、ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題を理解できる。 ・老化にともなう身体的・心理的・社会的な変化が理解できる	・定期試験 ・小テスト	60% 10%
コミュニケーション能力	・グループ内で協力し、ライフサイクルの特徴について理解を深めることができる。	・グループディスカッション	5%
課題解決能力	・人間の成長発達の過程においておこる様々な課題について理解し、生活支援について考えることができる。	・レポート ・グループによるプレゼンテーション	5% 10%
主体的に学ぶ力	・学習課題に積極的に取り組むことができる。	・授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項	
<p>・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。</p> <p>・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。</p>	

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「人間の成長と発達の基礎的知識」 発達概念を理解する。 生涯発達の段階について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 2～6 を読む(0.5 時間) 復習：P17 演習 1-1, 1-2 をする(2 時間)。
2 回目	「人間の成長と発達の基礎的知識」 成長・発達の考え方、成長・発達の原則・法則、成長発達に影響する要因を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 7～17 を読む(1 時間) 復習：成長・発達の原則・法則、成長発達に影響する要因をまとめる(3 時間)。
3 回目	「人間の発達段階と発達課題」 発達理論、発達段階と発達課題について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 20～34 を読む(1 時間) 復習：p 67 演習 2-1 をする(2 時間)。
4 回目	「人間の発達段階と発達課題」 身体的機能の成長と発達について学ぶ。心理的機能の発達について学ぶ。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 35～54 を読む(1.5 時間) 復習：p 67 演習 2-2 をする(2 時間)。
5 回目	「人間の発達段階と発達課題」 社会的機能の発達について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 55～65 を読む(1 時間) 復習：p 68 演習 2-3 をする(3 時間)。
6 回目	「老年期の特徴と発達課題」 老年期の定義、老年期の発達段階を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 70～97 を読む(1 時間) 復習：p 107 演習 3-1, 3-2 をする(3 時間)。
7 回目	「老年期の特徴と発達段階」 老年期をめぐる今日的課題を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 98～106 を読む(1 時間) 復習：高齢者が経験した出来事をインタビューする。(8 時間)
8 回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する(生理的機能低下、骨格、脳・	オンライン等で行う場合がある	予習：p 110～126 を読む(1 時間) 復習：高齢者に老化を感じる場面と発生時期、生活面での変化、

	神経、感覚器の変化と生活への影響)。		現在の社会的活動をインタビューする(8時間)
9回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する(血液・循環器系、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器、内分泌・代謝、免疫)。	オンライン等で行う場合がある	予習: p 126~139 を読む(1時間) 復習: インタビュー内容の身体的特徴を整理する。(1.5時間)
10回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する。 インタビューした高齢者の身体的特徴をグループによるプレゼンテーションで発表する。	面接授業	予習: p 110~139 を読む(1時間) 復習: p 141, 142 演習 4-1 をする(3時間)。
11回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響を理解する(認知機能、知的機能)。	オンライン等で行う場合がある	予習: p 143~153 を読む(1時間) 復習: インタビュー内容の心理的内容をまとめる(1.5時間)。
12回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響について理解する(パーソナリティ、動機づけ・適応)。	オンライン等で行う場合がある	予習: p 153~160 を読む(0.5時間) 復習: p 163 演習 4-2 をする。 適応機制の中で一つ自己の実体験をまとめる(4時間)。
13回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう心理的な変化と生活への影響を理解する。 適応機制について、実体験を発表することで理解を深める。	面接授業	予習: p 160~161 を読む(1時間) 復習: p 163 演習 4-3 をする(2時間)
14回目	「老化にともなうところとからだの変化と生活」 老化にともなう社会的な変化と生活への影響を理解する(生活上の課題、社会活動の現状と課題)。	オンライン等で行う場合がある	予習: p 164~177 を読む(1時間) 復習: p 164~177 を読む(1.5時間)。

15 回目	「老化にともなうこころとからだの変化と生活」 老化にともなう社会的な変化と生活への影響を理解する（老化理論）。	面接授業	予習：P177~183 を読む(0.5 時間) 復習：p 1 8 5 演習 4-4 をする(1.5 時間)。
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 こころとからだのしくみのテキストを使用することもある。
履修条件	
履修上の注意	プレゼンテーションでは PP の使用可
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：発達と老化の理解Ⅱ	授業コード：33231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	高齢者に多く見られる疾病並びに老化によっておこる生活への影響について理解し、生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・高齢者に多く見られる疾病と生活への影響や、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための知識を理解できる。	・定期試験 ・小テスト ・レポート	60% 5% 15%
コミュニケーション能力	・グループ内で協力し、高齢者に多くみられる疾病や生活への影響について理解を深めることができる。	・グループディスカッション	5%
課題解決能力	・保健医療職との連携の在り方について、グループディスカッションした内容を発表できる。	・グループによるプレゼンテーション	5%
主体的に学ぶ力	・学習課題に積極的に取り組むことができる。	・授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項	
<p>・本授業では、定期試験60%、小テスト5%、グループディスカッション5%、レポート15%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。</p> <p>・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。</p> <p>・適宜提出を求めたレポートは（復習内容）、研究室前のBOXに期日までに提出すること、一週間以内に教室で返却する。</p>	

授業計画	授業の内容	授業形態	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「高齢者と健康」 健康長寿にむけての健康を理解する。 p 195 演習 5-1 についてグループディスカッションを行う。	面接授業	予習：P188～194 を読む(1 時間) 復習： p 195 演習 5-1 を整理する (2 時間)。
2回目	「高齢者の症状・疾患の特徴」 高齢者の症状や疾患の特徴や、特有な症候を理解する。 p 201 演習 5-2 についてグループディスカッションを行う。	面接授業	予習： p 196～200 を読む(1 時間) 復習： p 201 演習 5-2 を整理する(2 時間)。
3回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する(骨格系・筋系)。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 202～211 を読む(1 時間) 復習：骨粗鬆症、骨折、変形性関節症の概要・原因・症状・治療をまとめる(4 時間)。
4回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する(骨格系・筋系、脳・神経系)。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 211～219 を読む(1 時間) 復習： p 288 演習 5-3①～⑥を行う。関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、パーキンソン病の概要・原因・症状・治療をまとめる(4 時間)。
5回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する(脳・神経系、皮膚・感覚器系)。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 220～227 を読む(1 時間) 復習： p 288 演習 5-3⑦～⑳を行う。脳血管疾患、目の疾患、耳の疾患、皮膚疾患の概要・原因・症状・治療をまとめる(4 時間)。
6回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する(循環器系)。	オンライン等で行う場合がある	復習： p 228～235 を読む(1 時間) 予習： p 288 演習 5-3㉓～㉙を行う。高血圧症、虚血性心疾患、不整脈、心不全、閉塞性動脈硬化症の概要・原因・症状・治療をまとめる(3 時間)。
7回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」	オンライン等で行	予習： p 236～241 を読む(1 時間) 復習： p 288 演習 5-3㉚～㉞を行

	高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（呼吸器系）。	う場合がある	う。COPD,肺炎、喘息の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
8回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（消化器系）。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 241～246 を読む(1時間) 復習：p 288・289 演習 5-3③④～⑥を行う。消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
9回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（腎・泌尿器系）。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 246～251 を読む(1時間) 復習：p 289 演習 5-3④⑦～52 を行う。前立腺疾患、尿路感染症、慢性腎臓病の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
10回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（内分泌・代謝系）。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 251～259 を読む(1時間) 復習：p 289 演習 5-3 の 53～65 をする。糖尿病、脂質異常症、痛風の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
11回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（歯・口腔疾患）。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 259～266 を読む(1時間) 復習：p 289 演習 5-3 の 66～68 をする。齲蝕、歯周病、ドライマウスの概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
12回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害による日常生活への影響と支援を理解する（悪性新生物、感染症）。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 266～273 を読む(1時間) 復習：p 289 演習 5-3 の 69～72 をする。胃がん、肺がん、大腸がん、ウイルス性呼吸器感染症の概要・原因・症状・治療をまとめる(3時間)。
13回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治療、症状が日常生活への影響、後遺障害に	オンライン等で行う場合がある	予習：p 274～281 を読む(1時間) 復習：p 289 演習 5-3 の 73～82 をする。感染性胃腸炎、胆のう炎・胆管炎、疥癬、うつ病、統合失調

	よる日常生活への影響と支援を理解する (感染症・精神疾患)。		症、の概要・原因・症状・治療を まとめる(3時間)。
14回目	「高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意 点」 高齢者に多い疾患の種類と原因・症状・治 療、症状が日常生活への影響、後遺障害に よる日常生活への影響と支援を理解する (熱中症、脱水症、貧血)。	オンライ ン等で行 う場合が ある	予習：p 281～287 を読む(1時間) 復習：熱中症、脱水症、貧血の概 要・原因・症状・治療をまとめる (3時間)。
15回目	「保健医療職との連携」 疾患の早期発見と保健医療職との連携を 理解する。 P299 演習 5-4 の事例をグループディス カッションする。 その内容をプレゼンテーションする。	面接授業	予習：p 294～299 を読む(1時間) 復習：発表を聞き P299 演習を追 加整理する(2時間)。
16回目	定期試験		

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」中央法規出版会 を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 テキスト「こころとからだのしくみ」「障害の理解」を使用することもある。
履修条件	
履修上の注意	プレゼンテーション時は PP の使用可
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：認知症の理解 A	授業コード：43431
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。 医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を学ぶ。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の原因疾患、認知症の段階に応じた症状など、生活支援を行うための根拠となる知識が理解できる。 認知症の人の心理や障害の特徴等を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 障害をかかえて生きることへの支援についての基礎的理解を深めることができる。 認知症の人の潜在能力を活用するための支援について話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート グループディスカッション 	5% 5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の生活ニーズを把握する方法について意見を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート グループによるプレゼンテーション 	5% 5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に積極的に取り組むことができる。 尊厳を支える介護について基本的な知識を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加・態度 	10%
合計			100%
補足事項			

・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、レポート10%、グループディスカッション5%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。

・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。

・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 授業概要について説明する。 「認知症ケアの理念と視点」 認知症を取り巻く状況を、認知症施策の歴史から学び今後のケアの方向性を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：P100～109を読む(1時間) 復習：認知症を取りまく状況の変化をまとめる(2時間)。
2回目	「認知症とは何か」 認知症の定義と診断基準、認知症初期に生じる生活支援、認知症の症状の全体像、認知症の特徴から全体像を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p7～11を読む(1時間) 復習：p11 演習1-1をする(2時間)。
3回目	「脳のしくみ」 脳の構造・機能、認知症の病理、アルツハイマー型認知症の進行から脳の構造と症状の関係を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p12～18を読む(1時間) 復習：認知症の病理をまとめる(2.5時間)
4回目	「脳のしくみ」 脳の構造と症状との関係、意識障害出ないこと の理解、うつの理解、老化と認知症の関係から認知症と脳 の関係を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p18～23を読む(1時間) 復習：p24 演習1-2をする(2.5時間)。
5回目	「認知症の人の心理」 不安・喪失感を抱く理由を理解する。 視点獲得という認知機能をフル活用したケアについて理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p25～28を読む(1時間) 復習：p29 演習1-3をまとめる(8時間)。
6回目	「認知症の症状・診断・治療・予防」 中核症状の理解ができる。(中核症状、記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、空間認知障害、視覚認知機能障害、社会的認知機能、失語・失行・失認症状、病識低下、認知障害以外の症状)	オンライン等で行う場合がある	予習：p32～39を読む(1時間) 復習：中核症状をまとめる。(4時間)
7回目	「生活障害の理解」 生活障害の重要性を理化する。 IADL 障害、ADL 障害、参加(家庭と社会)の	オンライン等で行う場合がある	予習：p40～45を読む(1時間) 復習：p46 演習2-1を

	障害を理解する。	ある	する(2.5時間)。
8回目	「BPSDの理解」 BPSDの定義、BPSDの背景要因を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 47～53を読む(1時間) 復習：p 61 演習 2-2 をする(2.5時間)。
9回目	「BPSDの理解」 BPSDの誘因、主なBPSDを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 54～61(1時間) 復習：誘因と主なBPSDをまとめる(2.5時間)。
10回目	「認知症の診断と重症度」 認知症の診断要件を理解する。 認知機能と重症度の評価法を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 62～70を読む(1時間) 復習：p 71 演習 2-3 をする(3時間)。
11回目	「認知症の理解と重症度、原因疾患と症状・生 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー 小体型認知症、前頭側頭型認知症の病態・症状・ 経過を理解する。 原因疾患により症状や経過も異なることを理解 する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 72～85を読む(1時間) 復習：p 86 演習 2-4 をする(3時間)。
12回目	「認知症の治療薬」 アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序や副 作用、効果の限界を理解する。 BPSDに対して用いられる薬の作用・副作用を 理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 81～96を読む(1時間) 復習：p 92 演習 2-5、P97 演習 2-6 をする(3時間)。
13回目	「障害をかかえ生きることへの支援」 「認知症ケアの理念と視点」 認知症ケアの理念と倫理、さらに認知症の人の 権利とそのかわりを理解する。 p 122 演習 3-1、3-2 をグループディスカッシ ョンする。	面接授業	予習：p 110～121を 読む(1時間) 復習：p 122 演習 3-1、3- 2 でのディスカッション内 容を整理する(2.5時間)。
14回目	「認知症当事者の視点から見えるもの」 認知症の人の思いや、認知症による体験が生活 に及ぼす影響を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 123～131を 読む(1時間) 復習：p 138 演習 3-3 を する(2.5時間)。
15回目	「認知症当事者の視点から見えるもの」 認知症の人の思いを尊重したサポート方法を理 解する。	面接授業	予習：p 131～137を 読む(1時間) 復習：p 138 演習 3-4 の

	p 1 3 8 演習3-4をグループで検討し発表する。		発表を聞き整理する(2.5時間)。
16回	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	教科書、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解を使用することがあります。 グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：認知症の理解 B	授業コード：43231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症のケアについて理解するための基本的知識を習得する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活および家族や社会とのかかわりへの影響を理解できる。 ・認知症の人の特性を踏まえた、アセスメントを行い、本人主体の理念に基づく認知症ケアの実践を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、認知症の人を地域で支えるサポート体制や多職種との連携などの支援について意見交換ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション 	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の考え方を理解し、介護福祉職に求められることを述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション 	5% 5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・尊厳を支える介護とはどのような介護課、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 	10%
合計			100%
補足事項			

・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション10%、レポート5%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。

・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。

・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形態	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 授業概要について説明する。 「パーソン・センタード・ケア」 パーソン・センタード・ケアの考え方と手技について理解を深める。	オンライン等で行う場合がある	予習：p140～147を読む(1時間) 復習：P148演習4-1をする(3時間)。
2回目	「認知症の理解と認知症の特性を踏まえたアセスメント・ツール」 センター方式でのアセスメント方法を理解できる。 健康状態のアセスメントの方法を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p149～161を読む(1時間) 復習：p160のC-1-2シートに実習でかかわった利用者の内容を記入する(3時間)。
3回目	「認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール」 P180 演習4-2の事例を、ひもときシートを用いてアセスメントできる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p161～178を読む(1時間) 復習：p180演習4-2を整理する(3時間)。
4回目	「認知症の人とのコミュニケーション」 認知症の人とのコミュニケーションの基本と留意点を理解できる。 「認知症の人のケア」 認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる(食事、排泄)。	オンライン等で行う場合がある	予習：p181～199を読む(1時間) 復習：認知症の人のコミュニケーションの留意点をまとめる(3時間)
5回目	「認知症の人のケア」 認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる(入浴、清潔保持、整容、休息と睡眠、活動・生きがい、BPSD)。	オンライン等で行う場合がある	予習：p201～215を読む(1時間) 復習：認知症の人の生活障害へのケアをまとめる(3時間)。
6回目	「認知症の人へのさまざまなアプローチ」 介護される人の持つ能力を奪わないアプローチ法を理解できる(ユマニチュード)。 バリデーションの実際を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p217～227を読む(1時間) 復習：ユマニチュード、バリデーション、ケア・マッ

	認知症ケア・マッピングの実施方法を理解できる。		ピングについてまとめる(3時間)。
7回目	「認知症の人へのさまざまなアプローチ」 回想法の実施方法と留意点を理解できる。 聞き書き実施方法を理解できる。 クラスの人の聞き書きかるたを作ることができる。	面接授業	予習：p 231～235を読む(1時間) 復習：聞き書きをするときの注意点をまとめる(3時間)。
8回目	「認知症の人の終末期医療と介護」 終末期における高齢者の状態を理解できる。 終末期での認知症の人の特徴と課題を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 237～243を読む(1時間) 復習：p 244 演習 4-3 を行う(3時間)。
9回目	「環境づくり」 認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性を説明できる。 環境づくりのポイントを理解し、具体的な手法を考えることができる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 245～255を読む(1時間) 復習：p 256 演習 4-4 を行う(3時間)。
10回目	「介護者支援」 家族介護者を支える介護福祉士の役割が理解できる 家族介護者の心の葛藤や心理過程を理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：258～265を読む(1時間) 復習：家族がたどる心理過程と葛藤をまとめる(3時間)。
11回目	「介護者支援」 家族介護者へのフォーマル、インフォーマルなレスパイトケアの方法を理解できる。 介護福祉職が行う認知症の家族への支援が理解できる。	オンライン等で行う場合がある	予習：p 266～275を読む(1時間) 復習：p 276 演習 5-1 をする(3時間)。
12回目	「介護者支援」 「介護福祉職への支援」 介護現場でやりがいをもって、働き続けられる環境を整備する方法を理解できる。 介護の現場で、認知症のケアモデルを実践するための方法が理解できる。 P291 演習 5-2, 5-3 をグループディスカッションし意見を述べるができる。	面接授業	予習：p 277～290を読む(1時間) 復習：グループディスカッションで検討したことをまとめる(3時間)
13回目	「認知症の人の地域生活支援」 国が認知症施策として掲げている新オレンジプランの成立経緯を理解できる。 新オレンジプランに位置づけられた機関やサー	オンライン等で行う場合がある	予習：p 294～305を読む(1時間) 復習：新オレンジプランで行われているサービスをま

	ビスを理解できる。		とめる(3時間)。
14回目	「多職種連携と協働」 多職種連携と協働で実践する認知症ケアの実際とその必要性を理解できる。 P323 演習6-1をグループディスカッションし意見を述べるができる。	面接授業	予習：p 306～317を読む(1時間) 復習：グループディスカッションで検討したことをまとめる(3時間)
15回目	「多職種連携と協働」 多職種連携と協働を実践するために必要な連携力を理解できる。 認知症ライフサポートモデルの中での、介護職者が担う役割を、グループによるプレゼンテーションする。	面接授業	予習：p 317～321を読む(1時間) 復習：多職種連携と協働を実践するために必要な連携力として自分が身に着きたいことをまとめる(3時間)。
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	グループによるプレゼンテーションは、PP使用可能。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：障害の理解 I	授業コード：41131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ、白仁田健吾				

授業概要	障害の概念と障害者福祉の基本的理念について理解するとともに、障害を持つ人やその家族への支援を行う際の根拠となる知識を習得する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と障害者福祉の基本理念について理解し、介護福祉職としての役割を説明できる。 ・ 障害のある人の心理や障害の特徴や、支援のあり方を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で協力し、障害福祉に携わる者としてのさまざまな対応について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループディスカッション 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の考え方のもと、障害を持つ人の生活課題を収集し、求められる介護福祉職の役割について意見を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート ・ グループによるプレゼンテーション 	10% 5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・ 尊厳を支える介護について基本的な知識を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加・態度 	10%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、プレゼンテーション5%、レポート10%、授業への参加・態度5%の割合で評価する。 ・ 授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、 	

次の授業時に行います。

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「障害の概念」 障害のとらえ方や変遷、障害者の定義を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：P 2～12 を読む(1 時間) 復習：障がい者の定義をまとめる (3 時間)。
2 回目	「障害者福祉の基本理念」 ノーマライゼーション、リハビリテーションなど重要な概念を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 13～25 を読む(1 時間) 復習：ノーマライゼーションの思想の歩みとリハビリテーションの意義をまとめる (4 時間)。
3 回目	「障害者福祉に関連する制度」 障害者福祉に関する歴史について学び、障害者にかかる法律の概要を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 27～36 を読む(1 時間) 復習：p 43 演習 1-1 をする (2 時間)。
4 回目	「障害者福祉制度と介護保険制度」 障害者福祉制度と介護保険制度の違いと両制度の併用のしくみを理解する。 P44 演習 1-2 の事例でグループディスカッションを行う。	面接授業	復習：p 37～42 を読む(1 時間) 予習：グループディスカッションの内容をまとめる (2 時間)。
5 回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援」 「障害のある人の心理」 人間の欲求、適応機制、障害受容に影響を与える要因、支援のポイントを理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p46～52 を読む(1 時間) 復習：人間の欲求をまとめる (2.5 時間)。
6 回目	「肢体不自由 (運動機能障害)」 肢体不自由の状態、特性、支援の在り方を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 54～65(を読む 1 時間) 復習：障害の原因となる主な疾患についてまとめる (3 時間)。
7 回目	「視覚障害」 視覚障害の状態、特性、支援の在り方を理解する。 P157 演習 2-2 を行う (アイマスクをする)。	面接授業	予習：p 66～73 を読む(1 時間) 復習：プレゼンテーション内容を整理する (2.5 時間)

	アイマスク、白杖を使用し校内を動いてみる。 体験した感想と支援のあり方をグループで話し 合いプレゼンテーションを行う。		
8回目	「聴覚・言語障害」 言語障害の種類、原因、特性、支援方法を理解す る。	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 74～84 を読む(1時 間) 復習：聴覚障害者のコミュ ニケーションの手段、言語 障害の種類をまとめる (4 時間)。
9回目	「重複障害」 重複障害の種類、原因、特性、支援方法を理解す る。	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 85～93 を読む (1時間) 復習：重複障害のある人へ の支援をまとめる (3時 間)。
10回目	「重症心身障害」 重症心身障害の定義、特性、生活、支援の注意 点を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 148～156 を読む(1 時間) 復習：重症心身障害の定義、 特性、支援をまとめる(3時 間)。
11回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援」 「知的障害」 知的障害の状況による意思表示やコミュニケー ションの方法を理解する。 認知力・生活体験・ライフステージの関係を考慮 した支援を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 160～171 を読む(1 時間) 復習：家族や支援者にとっ て大切なことをまとめる(3 時間)
12回目	「知的障害」 P221 演習3-2をおこない望ましい支援の内容を グループごとにプレゼンテーションする。	面接授業	復習：プレゼンテーション の内容をまとめる (3時間)
13回目	「精神障害」 精神障害の種類、特性、支援 (社会資源を含む) とその留意点を理解する。	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 172～182 を読む(1 時間) 復習：精神障害の特性と 様々な支援をまとめる (5 時間)。
14回目	「高次脳機能障害」 高次脳機能障害の症状、原因、影響 (精神・心理・ 生活)、特性、支援を理解する	オンライ ン等で行 う場合が ある。	予習：p 184～195 を読む(1 時間) 復習：高次脳機能障害の症 状、特性と支援をまとめる

			(3時間)。
15回目	「発達障害」 発達障害の特性、生活、支援を理解する。 家族、教育、医療との連携の在り方を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 197～209 を読む(1時間) 復習：p 220 演習 3-1①～⑩ をする (3時間)。
16回目	定期試験		

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 こころとからだのしくみを使用することがある。
履修条件	
履修上の注意	プレゼンテーションは PP 使用可能
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：障害の理解Ⅱ	授業コード：41231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	見えない障害である内部障害について学び、どのような支援が必要なのかを理解する。 また、多職種連携と協働のあり方、家族への支援のあり方などの基本的な知識を習得する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的知識を理解できる。 ・家族の受容段階や介護力に応じた支援を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト 	60% 10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で協力し、障害福祉に携わる者に求められるさまざまな対応について理解を深めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援についての自己の考えを整理し、生活課題を推測しながら意見を述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・グループによるプレゼンテーション 	10% 5%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・尊厳を支える介護の重要性を意識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 	10%
合計			100%

補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、グループディスカッション5%、レポート10%、グループによるプレゼンテーション5%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・授業の途中に小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、 	

辻の授業で返却する。

・レポートは指定日までに研究室入口の BOX に提出してください。提出されたレポートは 1 週間以内に返却する。

授業計画	テーマ	授業形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」 授業概要について説明する。 「内部障害—心臓機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 94～102 を読む(1 時間) 復習：心臓機能障害の特性の理解をまとめる(3 時間)。
2 回目	「内部障害—呼吸機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 102～111 を読む(1 時間) 復習：呼吸機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
3 回目	「内部障害—腎機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 111～119 を読む(1 時間) 復習：腎機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
4 回目	「内部障害—膀胱・直腸機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 119～126 を読む(1 時間) 復習：膀胱・直腸機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
5 回目	「内部障害—小腸機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 127～133 を読む(1 時間) 復習：小腸機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
6 回目	「内部障害—ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 133～141 を読む(1 時間) 復習：ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
7 回目	「内部障害—肝機能障害」 定義、原因、特性の理解、支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 141～146 を読む(1 時間) 復習：肝機能障害の特性に応じた支援をまとめる(3 時間)。
8 回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II」「難病」	オンライン等で行	予習：p 210～216 を読む(1 時間)

	難病の定義を理解する。 ALS、パーキンソン病、悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーの定義、症状、治療を理解する。	う場合がある。	復習：p 220 演習 3-1⑫～⑳をする(3時間)。
9回目	「障害別の基礎的理解と特性に応じた支援II」「難病」 難病の特性と特性に応じた支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 216～219 を読む(1時間) 復習：難病の特性と特性に応じた支援をまとめる(3時間)。
10回目	「連携と協働」 「地域のサポート体制」 地域サポート体制の概念と社会資源の考え方を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 224～228 を読む(1時間) 復習：P247 演習 4-1 をする。 4-2 の①をする(5時間)。
11回目	「連携と協働」 「障害福祉サービスの提供のしくみ」 サービス利用のしくみと相談支援専門員の役割を知る。 協議会の持つ機能と地域のサポート体制を知る。 P247 演習 4-2 の②をグループディスカッションする。	面接授業	予習：p 228～237 を読む(1時間) 復習：グループディスカッションをした内容を整理する(3時間)。
12回目	「連携と協働」 「チームアプローチ」 チームアプローチの在り方を知る。 保健医療関係職種と業務内容を知る。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p238～246 を読む(1時間) 復習：p 240 の事例に対しH介護福祉士として会議で発言することをまとめる(3時間)。
13回目	「家族への支援」 「家族への支援とは」 障がい者家族への支援の考え方を理解する。 (自分に置き換えて考える、受容を押し付けていないか、本人・家族双方の立場から考えているか)	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 250～261 を読む(1時間) 復習：P 275 演習 5-1 をする(1時間)。
14回目	「家族への支援」 「家族の介護力の評価と介護負担の軽減」 家族と障害者、環境との関係性に着目した支援を意識する。 家族の介護力をふまえた支援を理解する。	オンライン等で行う場合がある。	予習：p 261～274 を読む(1時間) 復習：事例 1～4 を読み介護福祉士として考える姿勢をまとめる(3時間)
15回目	「家族への支援」 「家族の介護力の評価と介護負担の軽減」	面接授業	予習：P275 演習 5-2 を読み意見をまとめておくを読む(1時

	障害のある人の家族を支えるために必要なことを、事例を通してグループディスカッションし内容をプレゼンテーションする。		間)。 復習:プレゼンテーションを聞き追加する(3時間)。
16回目	定期試験		

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。 こころとからだのしくみを使用することがある。
履修条件	
履修上の注意	プレゼンテーション時はPP使用可
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：医療的ケア A	授業コード：12131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義・演習
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>医療職と連携し、介護福祉士として喀痰吸引を安全で適切に実施できるようになるための基礎的知識を習得する。</p> <p>①医療的ケア実施の基礎的知識を理解する。</p> <p>②高齢者、障がい者・児に喀痰吸引実施手順を理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・医行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等制度が理解できる。 ・安全に実施するために必要な基礎的知識と手技が理解できる。 ・根拠に基づく手技が実践できるための知識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・演習 (レポートを含む) 	<p>60%</p> <p>5%</p> <p>10%</p>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引に際して、利用者及び家族へ同意を得るための説明内容が理解できる。 ・実施にあたって必要となる医師の指示の確認、医療職への報告や連絡・相談、記録内容が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト (レポートを含む) 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づき喀痰吸引を実施することを十分に理解したうえで、わからないことを明確にする力を身につけることができる。 ・介護福祉士の役割として、喀痰吸引を実践するときに、多職種と連携しなければならないことが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 (レポートを含む) 	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加・態度 	10%

	・職業倫理の重要性を利用者、家族の視点から考えることができる。		
			合計 100%
補足事項			
<p>・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、演習（レポートを含む）20%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。</p> <p>・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。</p> <p>・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。</p> <p>・演習は実習室で行います。</p>			

	授業内容	実施形態	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 授業概要と担当について説明する。 「医療的ケア」 医療的ケアとは何かがいえる。 医行為、チーム医療について理解する。	オンライン 等で行う場合がある	予習：P2～4を読み、ノートにまとめておく(1.5時間) 復習：医療的ケアについてまとめる。P36 演習1-1をする。(1.5時間)
2回目	「医療的ケア」 医療の倫理について理解する。	オンライン 等で行う場合がある	予習：p4～11を読み、医療的ケアについてまとめておく(1.5時間) 復習：p2～11を読み、医療倫理についての具体的例を挙げる(1.5時間)
3回目	「医療的ケア」 喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）を理解する。	オンライン 等で行う場合がある	予習：p11～21を読み、ノートにまとめておく(1.5時間) 復習：p11～21を読み、制度について、整理する(1.5時間)
4回目	「医療的ケア」 医療的ケアと喀痰吸引等の背景を理解する。	オンライン 等で行う場合がある	予習：p21～27を読み、ノートにまとめておく(1.5時間) 復習：医療的ケアの背景についてまとめ、演習1-2をする(1.5時間)
5回目	「医療的ケア」 その他の制度（介護保険法・障害者総合支援法、健康保険法・学校教育法）を理解する。	オンライン 等で行う場合がある	予習：p28～35を読み、ノートにまとめておく(1.5時間) 復習：医療的ケアに関わる諸制度についてまとめる(1.5時間)

6回目	「清潔保持と感染予防」 感染予防について理解する。 介護福祉職の感染予防を理解する。	オンライン 等で行う場 合がある	予習： p 62～71 を読み、ノート にまとめておく (1.5 時間) 復習： p 78 演習 1-6, 1-7 をする (1.5 時間)
7回目	「清潔保持と感染予防」 療養環境の清潔、消毒法を理解する。 消毒と滅菌を理解する。	オンライン 等で行う場 合がある	予習： p 71～78 を読み、まとめ ておく (1.5 時間) 復習： 消毒と滅菌の違いについ てまとめる (1.5 時間)
8回目	「子どもの吸引について」 子どもの吸引について理解する。 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対 応、説明と同意について理解する。	オンライン 等で行う場 合がある	予習： p 116～118 を読み、要点 をまとめる (1.5 時間) 復習： P137 演習 2-2 をする (1.5 時間)。
9回目	「健康状態の把握」 健康状態を知る項目について理解する。 バイタルサインについて理解する。	面接授業	予習： p 79～86 (1 時間) 復習： p 79～86 を読む (1 時間)
10回目	「健康状態の把握」 バイタルサイン測定体験を行う。 急変状態について理解する。	面接授業	予習： p 86～90 を読む (1 時間) 復習： p 91 演習 1-8 をする (3 時 間)
11回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 呼吸のしくみとはたらきを理解する。 いつもと違う呼吸状態を理解する。 喀痰吸引とは (痰排出のしくみ、痰の貯留を 示す状態) について理解する。	オンライン 等で行う場 合がある	予習： p 94～101 を読む (1 時間) 復習： p 136 演習 2 - 1 の <u>12</u> を する (2 時間)
12回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 喀痰吸引とは何かと言える。 喀痰吸引が必要な状態を理解する。 人工呼吸器と吸引について理解する。 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医 師・看護師との連携について理解する。	オンライン 等で行う場 合がある	予習： p 102～116 を読む (1 時 間) 復習： p 136 演習 2 - 1 の <u>3</u> ～ <u>6</u> をする (2 時間)
13回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対 応、説明と同意について理解する。 呼吸器系の感染と予防を理解する。 中間まとめ	面接授業	予習： p 118～123 を読む (1 時 間) 復習： グループディスカッショ ンのテーマについて意見をまと めてくる (2 時間)。
14回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論」 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確 認のしかたを理解する。	面接授業	予習： p 123～135 を読む (1 時 間) 復習： グループディスカッショ

	急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		ンテーマについて意見をまとめてくる(2時間)。
15回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説」 喀痰吸引で用いる器具・器材とその仕組み・清潔保持について理解する。 実物提示、実際に器具に触れてみる。 吸引の技術と留意点(必要物品の準備・設置と留意点)を理解する。	面接授業	予習：p 138～143 を読む(1時間) 復習：P160 演習 2-3 をする(2時間)
16回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説」 吸引の技術と留意点(吸引前の利用者の状態観察と留意点、吸引前の利用者の準備と留意点、吸引実施手順と留意点)を理解する。	面接授業	予習：p 144～154 を読む(1時間) 復習：P161.162 演習 2-4～2-6 をする(2時間)。
17回目	「喀痰吸引の実施の手引き」 吸引の技術と留意点(準備から後始末までの一連の手順を体験する)学内演習を行う。	面接授業	予習：p 224～246 を読む AR を視聴する(1時間) 復習：p 224～246 の AR を視聴する(2時間)
18回目	「高齢者および障害児・者の喀痰吸引解説」 喀痰吸引に伴うケアを理解する。 報告および記録について理解する。 後半まとめ 「喀痰吸引の実施の手引き」の内容を理解する。	面接授業	予習：P132～135 を読む(1時間) 復習：p 224～246 AR を視聴する(2時間)

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料・学習プリントを配布する。
履修条件	
履修上の注意	実習室を使用する場合は、介助用エプロンを持参し、ドレスコードを守る。 16・17回目はスマホを持参する。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：医療的ケア B	授業コード：32132
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義・演習
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>医療職と連携し、介護福祉士として経管栄養を安全で適切に実施できるようになるための基礎的な知識を習得する。</p> <p>シミュレーションモデルに救急蘇生法と AED の基本的操作を実施できる技術を習得する。</p> <p>①高齢者、障がい者・児に経管栄養実施手順を理解する。</p> <p>②応急手当普通救命講習 I を受講する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・医行為に関する法律、介護福祉職による喀痰吸引等制度が理解できる。 ・安全に実施するために必要な基礎的知識と手技が理解できる。 ・根拠に基づく手技が実践できるための知識がある。 ・救命技能認定証を取得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・演習 (レポートを含む)・ 	<p>60%</p> <p>5%</p> <p>10%</p>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養に際して、利用者及び家族へ同意を得るための説明内容が理解できる。 ・実施にあたって必要となる医師の指示の確認、医療職への報告や連絡・相談、記録内容が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト (レポートを含む) 	5%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づき経管栄養を実施することを十分に理解したうえで、わからないことを明確にする力を身につけることができる。 ・介護福祉士の役割として、経管栄養を実践するときに、多職種と連携しな 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 (レポートを含む) 	10%

	ければならないことが理解できる。		
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・職業倫理の重要性を利用者、家族の視点から考えることができる。 	・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験60%、小テスト10%、演習10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。 ・授業の途中で小テストを何回かします。実施日は、事前に知らせます。テストの返却は実施後又は、次の授業時に行います。 ・レポートは指定日までに研究室入口のBOXに提出してください。提出されたレポートは1週間以内に返却する。 ・演習は実習室で行います。 			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習
1回目	「オリエンテーション」 医療的ケア実施の基礎を理解する。 医療倫理について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p2~4を読み、まとめる(1.5時間) 復習：P4~11 医療倫理についてまとめておく(1.5時間)
2回目	「安全な療養生活」 安全に喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、リスクマネジメントを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p37~44を読み、まとめておく(1.5時間) 復習：リスクマネジメントについて整理し、p60 演習1-31-4をする(1.5時間)。
3回目	「安全な療養生活」 救急蘇生の重要性、一時救命処置、救急蘇生について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p44~48を読み、まとめる(1.5時間) 復習：救急蘇生の必要性についてまとめ、p285~295を読む(1.5時間)。
4回目	「安全な療養生活」 異物、分泌物除去法について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習：p48~55を読み、まとめる(1.5時間) 復習：異物・分泌物除去法についてまとめ、p61 演習1-5をする

			(1.5 時間)
5 回目	「安全な療養生活」 人工呼吸の方法について理解する。 AED の使用方法について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 56～59 をよみ、まとめる (1.5 時間) 復習：人工呼吸、AED についてまとめる(1.5 時間)
6 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 消化器系のしくみとはたらきを理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 164～170 を読みまとめる (1.5 時間) 復習： p 74～78 を読み、まとめる (1.5 時間)
7 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 消化・吸収とよくある消化器の症状を理解する。 経管栄養とは何かが言える。 注入する栄養剤に関する知識を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 170～178 を読み、まとめる (1.5 時間) 復習：経管栄養についてまとめ、 p 196・197 演習 3-1、3-2 をする(1.5 時間)。
8 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養実施上の留意点を理解する。 子どもの経管栄養について理解する。	オンライン等で行う場合がある	復習： p 178～183 を読み、まとめる (1.5 時間) 予習：子どもも含めた経管栄養についての留意点をまとめ、 p 197 演習 3-3 をする(1.5 時間)
9・10 回目	「安全な療養生活」 救急蘇生 (演習) 普通救命講習 I を受講する 発見⇒反応の確認⇒救急体制の確保⇒呼吸の確認⇒胸骨圧迫⇒気道確保⇒人工呼吸⇒AED 操作の体験をシミュレーションモデルに実施できる。	面接授業	予習： p 285～295 (1 時間)、 復習： p 285～295 をまとめる (4 時間)
11 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養に関する感染と予防について理解する。 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意を理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 184～188 を読む(1 時間) 復習： p 198 演習 3-4 をする(2 時間)
12 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 188～193 を読む(1 時間) 復習： p 199 演習 3-5 をする(2 時間)
13 回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養概論」 急変・事故発生時の対応と再発防止について理解する。	面接授業	予習： p 194～195(0.5 時間) 復習： p 199 演習 3-6 をする(2 時間)

14回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説」 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 経管栄養の技術と留意点について理解する。	オンライン等で行う場合がある	予習： p 200～206 を読む(1時間) 復習： p 221 演習 3-7,3-8 をする(2.5時間)
15回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説」 経管栄養の技術と留意点について理解する。	面接授業	予習： p 207～215 を読む(1時間) 復習： p 222 演習 3-9 をする(2.5時間)
16回目	「高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説」 経管栄養に必要なケアについて理解する。 報告および記録を理解する。	面接授業	予習： p 215～219(1時間)復習： p 222 演習 3-10、3-11 をする(2.5時間)
17回目	「経管栄養のケア実施の手引き」 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の方法を理解できる。	面接授業	予習、復習： p 247～270 を読む AR を視聴する(3時間)
18回目	「経管栄養のケア実施の手引き」 経鼻経管栄養の方法を理解できる。	面接授業	予習、復習： p 271～283 を読む AR を視聴する(3時間)

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。また、授業では適宜資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	9・10回はジャージを着用する。 実習室を使用する場合は、介助用エプロンを持参し、ドレスコードを守る。 16・17回目はスマホを持参する。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：医療的ケア C	授業コード：53232
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	演習（実習）
担当教員				
光武 きよみ				

授業概要	<p>医療職との連携のもとで、医療的ケア（喀痰吸引並びに経管栄養）を安全・適切に実施できるようにするための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>医療的ケア A・B で得た知識を基に、シミュレーションモデルを使用し、①喀痰吸引—通常手順②喀痰吸引—非侵襲の手順③喀痰吸引—気管カニューレ④経管栄養—経鼻栄養⑤経管栄養—胃ろうの5項目について、準備から後始末、記録の記入報告までの一連の演習を行い、基本研修評価基準の項目をすべて実践できることを目標とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	自ら考え、適切に判断し継続して行動できる。	・実技試験	10%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な用具の取り扱いができる。 ・医行為である喀痰吸引や経管栄養を、安全に実施するための根拠を理解し、確実に基本研修評価基準内容に沿った行動ができる（5項目すべて）。 ・感染防止に努める行動ができる。 	・実技試験	60%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して、医療的ケアの提供について、説明と同意を得ることができる。 ・観察内容を医療者に報告できる。 	・実技試験	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に実施するための自己の課題を明確にすることができる。 	・実技試験	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に積極的に取り組むことができる。 ・倫理に基づいた行動ができる。 	・授業への参加・態度（自己練習、実技試験の態度）	10%
1項目5回以上実技評価を受けていること			受験要件
合計			100%

補足事項

1. 筆記試験による知識の定着確認（第1段階）

四肢択一問題 30 問の総正解率が 9 割以上満たしていることを確認できた学生から、演習を実施する。

2. 技能習得の確認

・実技は、①喀痰吸引—通常手順②喀痰吸引—非侵襲的手順③喀痰吸引—気管カニューレ④経管栄養—経鼻栄養⑤経管栄養—胃ろうの 5 項目を、それぞれ最低 5 回以上行う。

・①～⑤の項目において、各項目 5 回以上の技能習得判定（評価）を受ける。各項目の最後の評価が、基本研修基準で示す手順どおりに、すべて実施できていると評価を受けた者に履修を認める。

・技能習得は第 1 段階から第 4 段階まで、段階を追って習得する。各段階の詳細な説明は、授業開始時に行う。

授業計画	テーマ	実施形式	予習・復習
1 回目	「オリエンテーション」 1. 授業概要（第 1 段階から第 4 段階）と実技評価について理解する。医療的ケア C 合格基準について理解する。 2. 筆記試験を受ける 3. 実技評価を受けるための諸準備を行う。（指示確認、手洗い、必要物品の確認、環境整備、観察、報告、記録） 2 段階 2 項目のデモンストレーション見学。 経管栄養実技 2 段階準備	面接授業	予習、復習（1 時間）： p 164～ 219 読む AR 視聴
2 回目	「経管栄養 2 段階」 経鼻経管栄養・胃ろうのグループ体験を行う。各自 1 回は必ず体験する。	面接授業	予習、復習（1 時間）： p 2 47～283 読む AR 視聴
3 回目	「経鼻経管栄養 3 段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い、教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1 時間）： p 271～283 読 む AR 視聴
4 回目	「経鼻経管栄養 3 段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1 時間）： p 271～283 読 む AR 視聴
5 回目	「経鼻経管栄養 3 段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1 時間）： p 271～283 読 む AR 視聴
6 回目	「経鼻経管栄養 4 段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、	面接授業	予習、復習（1 時間）： p

	報告及び記録を行い教員より評価を受ける。		271～283 読む AR 視聴
7 回目	「経鼻経管栄養 4 段階」 経鼻経管栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 271～283 読む AR 視聴
8 回目	「胃ろう栄養 3 段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 247～270 読む AR 視聴
9 回目	「胃ろう栄養 3 段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 247～270 読む AR 視聴
10 回目	「胃ろう栄養 3 段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 247～270 読む AR 視聴
11 回目	「胃ろう栄養 4 段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 247～270 読む AR 視聴
12 回目	「胃ろう栄養 4 段階」 胃ろう栄養法の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 247～270 読む AR 視聴
13 回目	「吸引通常手順 (鼻腔内吸引) 2 段階」 吸引通常手順 (鼻腔内吸引) デモンストレーション見学後グループ体験する。各自 1 回は体験する。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 94～159 読む AR 視聴
14 回目	「吸引通常手順 (鼻腔内吸引) 3 段階」 吸引通常手順 (鼻腔内吸引) の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 224～234 読む AR 視聴
15 回目	「吸引通常手順 (鼻腔内吸引) 3 段階」 吸引通常手順 (鼻腔内吸引) の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習 (1 時間) : p 224～234 読む AR 視聴

16 回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）3段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
17 回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）4段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
18 回目	「吸引通常手順（鼻腔内吸引）4段階」 吸引通常手順（鼻腔内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
19 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）2段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）デモンストレーション見学後グループ体験する。各自1回は体験する。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
20 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
21 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
22 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）3段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
23 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）4段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
24 回目	「喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）4段階」 喀痰吸引手順（非侵襲的吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 224～234 読む AR 視聴
25 回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）2段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）デモンストレーション見学後	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235

	グループ体験する。各自1回は体験する。		～246 読む AR 視聴
26回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235 ～246 読む AR 視聴
27回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235 ～246 読む AR 視聴
28回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）3段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235 ～246 読む AR 視聴
29回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）4段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235 ～246 読む AR 視聴
30回目	「喀痰吸引手順（気管内吸引）4段階」 喀痰吸引手順（気管内吸引）の必要物品の準備、実施、後片付け、観察、報告及び記録を行い教員より評価を受ける。	面接授業	予習、復習（1時間）：p 235 ～246 読む AR 視聴

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規出版会を使用する。医療的ケアについてのDVDも視聴する。 平成24年3月30日付け社援発0330第43号厚生労働省 社会・援護局長通知で示された、基本研修評価項目を使用する。
履修条件	前期に医療的ケアA、医療的ケアBの履修が必要である。
履修上の注意	筆記試験による知識の定着確認（第1段階）で、総正解率が9割未満は、実技の体験ができないので注意する。
オフィスアワー	授業時間前後に実習室で質問を受けつける。
備考・メッセージ	空き時間に、基本研修評価項目に沿って自己練習をおこなってください。